

第 3 編

統 計 編

第1章 病院事業統計

1 総括

区分	令和3年度	令和4年度					合計
		循環器系	呼吸器系				
			一般	結核	感染症		
外来	初診患者数 (1日平均)	3,845人 (15.9人)	2,389人 (9.8人)	2,136人 (8.8人)	-	-	4,525人 (18.6人)
	延べ患者数 (1日平均)	67,824人 (280.3人)	39,857人 (164.0人)	30,105人 (123.9人)	-	-	69,962人 (287.9人)
	実診療日数	242日	243日	243日	-	-	243日
入院	稼働病床数	343床		292床	30床	21床	343床
	入院患者数 (1日平均)	5,008人 (13.7人)	3,317人 (9.1人)	2,040人 (5.6人)	35人 (0.1人)	105人 (0.3人)	5,497人 (15.1人)
	退院患者数 (1日平均)	5,010人 (13.7人)	3,321人 (9.1人)	2,068人 (5.7人)	22人 (0.1人)	78人 (0.2人)	5,489人 (15.0人)
	延べ患者数 (1日平均)	68,242人 (187.0人)	46,646人 (127.8人)	24,708人 (67.7人)	1,621人 (4.4人)	1,017人 (2.8人)	73,992人 (202.7人)
	病床利用率	54.5%		66.9%	14.8%	13.3%	59.1%
	平均 在院日数	13.6日		13.3日	56.9日	7.6日	13.5日

2 外来患者数

(1) 月別外来患者状況

(単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
診療日数	20	19	22	20	22	20	20	20	20	19	19	22	243
初診患者数	342	338	370	396	458	395	372	433	357	331	332	401	4,525
診療患者延べ数	5,567	5,509	5,921	5,782	5,834	5,894	6,238	5,858	5,968	5,519	5,434	6,438	69,962
1日平均患者数	278.4	289.9	269.1	289.1	265.2	294.7	311.9	292.9	298.4	290.5	286.0	292.6	287.9

(2) 診療科別外来患者状況

(単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
循環器内科	1,763	1,718	1,883	1,845	1,813	1,856	1,873	1,744	1,815	1,753	1,596	2,004	21,663
腎臓内科	257	256	257	247	236	244	234	199	245	226	214	271	2,886
心臓外科	275	289	321	353	283	350	356	287	349	314	291	369	3,837
血管外科	644	600	646	510	499	523	573	570	518	568	532	495	6,678
放射線科	78	40	46	63	84	97	154	206	235	144	174	272	1,593
呼吸器内科	1,733	1,786	1,854	1,913	2,036	1,932	2,084	1,954	1,960	1,745	1,808	2,071	22,876
緩和ケア内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器外科	299	297	317	354	298	356	431	340	278	327	317	339	3,953
消化器外科	121	112	127	103	147	138	138	116	129	102	103	142	1,478
脳神経外科	374	388	446	382	422	387	384	418	427	324	386	455	4,793
リハビリテーション科	21	23	22	10	14	9	10	20	8	16	12	16	181
その他	2	0	2	2	2	2	1	4	4	0	1	4	24
計	5,567	5,509	5,921	5,782	5,834	5,894	6,238	5,858	5,968	5,519	5,434	6,438	69,962

3 入退院患者数

(1) 月別入退院状況

(単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院患者数	408	409	428	458	477	447	466	508	476	500	449	471	5,497
退院患者数	455	380	438	467	444	445	457	488	540	432	447	496	5,489
死亡患者内数	23	17	16	13	22	15	24	28	24	28	25	25	260
月末在院患者数	137	166	156	147	180	182	191	211	147	215	217	192	-
入院患者延べ数	5,663	5,496	5,527	5,954	5,997	5,894	6,012	6,361	6,769	6,849	6,419	7,051	73,992
1日平均患者数	188.8	177.3	184.2	192.1	193.5	196.5	193.9	212.0	218.4	220.9	229.3	227.5	202.7
病床利用率	55.0%	51.7%	53.7%	56.0%	56.4%	57.3%	56.5%	61.8%	63.7%	64.4%	66.8%	66.3%	59.1%

(2) 診療科別入院状況

(単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
循環器内科	166	164	167	173	170	165	168	180	199	193	159	181	2,085
	1,886	1,568	1,735	1,825	1,884	1,622	1,699	1,695	1,960	1,979	1,975	1,993	21,821
腎臓内科	6	3	6	8	7	6	5	7	11	9	7	5	80
	162	114	48	132	106	185	203	158	215	282	218	174	1,997
心臓外科	9	11	15	10	12	9	14	20	16	13	15	13	157
	390	419	405	596	445	375	392	452	554	424	395	456	5,303
血管外科	43	30	29	23	27	24	34	31	28	26	28	31	354
	567	434	520	340	345	377	343	400	341	444	362	446	4,919
呼吸器内科	116	119	123	145	171	141	156	177	158	159	145	140	1,750
	1,474	1,461	1,502	1,663	1,848	1,656	1,960	2,243	2,267	2,164	2,084	2,445	22,767
緩和ケア内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器外科	21	23	27	31	26	35	23	30	17	26	22	31	312
	208	257	280	368	268	392	355	318	268	237	216	329	3,496
消化器外科	7	8	16	9	12	12	13	9	5	10	8	9	118
	53	61	140	104	57	136	68	84	34	97	119	130	1,083
脳神経外科	40	51	45	59	52	55	53	54	42	64	65	61	641
	923	1,182	897	926	1,044	1,151	992	1,011	1,130	1,222	1,050	1,078	12,606
計	408	409	428	458	477	447	466	508	476	500	449	471	5,497
	5,663	5,496	5,527	5,954	5,997	5,894	6,012	6,361	6,769	6,849	6,419	7,051	73,992

※上段は実数、下段は延べ数。

4 放射線技術部統計

一般撮影

一般撮影部門の業務内容としては、胸腹部の単純撮影のほか、全身の骨撮影、病棟や手術室でのポータブル撮影、消化管造影検査などを行っている。

業務実績としては、Covid-19による外来患者の受け入れや入院患者数などの制限も緩和され、総患者数は前年比106.2%となった。区別では一般撮影室108.1%、病室撮影105.0%、手術室107.3%、消化管造影では嚥下造影170.5%、内視鏡では気管支ファイバー154.7%となった。

一方でCovid-19患者を含む感染症撮影室では、前年比53.8%となっている。

放射線技術部一般撮影部門としては、今後も誠意と熱意をもって質の高い医療と安全な医療の提供に努めていく。なお、内視鏡検査（気管支ファイバー、大腸ファイバー）は放射線技師が検査に携わっている場合のみの集計とした。

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総患者数(人)	4234	4325	4425	4583	4646	4674	4467	4591	4647	4663	4434	4898	54587
一般撮影(感染症)	45	29	11	80	99	35	35	66	96	128	52	37	713
胸部	2	0	0	0	0	0	1	1	1	3	0	1	9
腹部	0	0	0	1	0	1	2	3	1	0	0	2	10
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般撮影(本館棟)	2823	2912	3061	3095	3046	3054	3080	3128	3168	3048	2971	3490	36876
胸部	258	261	246	207	205	227	193	197	156	162	190	170	2472
腹部	18	26	20	23	16	20	16	17	15	15	15	17	218
頭部・顔面その他	35	38	44	33	26	25	28	31	20	21	23	10	334
脊椎	16	17	19	13	14	6	8	13	12	7	7	10	142
四肢・その他骨	817	819	787	903	1003	1049	876	941	974	1061	980	979	11189
病室撮影	163	161	174	170	168	195	158	120	144	164	126	112	1855
胸部	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	5	0	8
腹部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	28	27	34	33	35	35	37	36	29	34	32	38	398
手術室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	4
消化管造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
胃(食道を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
注腸	7(6)	4(3)	11(10)	6(5)	2(2)	9(7)	13(13)	8(8)	5(3)	7(4)	8(7)	8(7)	88(75)
その他(嚥下)	29	35	29	25	33	27	33	38	29	18	31	32	359
気管支ファイバー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大腸ファイバー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

MRI 令和4年度集計

今年度のMRI検査は、総患者数で前年度比101%、総件数で前年度比103%であった。前年度の総患者数、総件数は新型コロナウイルス感染症流行以前よりも増加していたが、今年度も引き続き前年度と同様の件数を実施することができた。検査部位別では、頭部造影(119%)、頸部(109%)、脊椎(117%)、心臓(140%)、腹部(128%)、四肢(123%)が増加した。また、本年度も当直時間帯における緊急MRI検査施行体制を1年間通して維持し、346人に対して時間外MRI検査を施行した。MRI検査は診療時間の枠を超えて高度専門医療の提供による患者サービスの向上に貢献できたものと思われる。

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総患者数(人)	367	414	418	389	382	375	370	398	357	343	371	404	4588
総件数(件)	576	635	639	616	615	580	574	614	554	530	569	635	7137
頭部	265	308	302	299	292	264	284	295	261	249	269	312	3400
造影	56	57	56	51	48	65	37	53	55	55	58	47	638
頸部	209	221	221	227	233	205	204	216	197	187	198	231	2549
単・造	2	1	4	4	1	5	1	3	3	2	5	2	33
胸椎	1	1	0	1	1	1	0	2	1	3	2	2	15
腰椎	3	0	3	4	1	1	1	4	2	1	3	4	27
[脊椎]	[6]	[2]	[7]	[9]	[3]	[7]	[2]	[9]	[6]	[6]	[10]	[8]	[75]
胸部	2	0	2	1	1	2	3	3	1	1	2	6	24
心臓	16	19	19	17	22	24	22	24	24	22	19	19	247
腹部	5	11	9	4	3	6	9	6	2	3	4	2	64
骨盤	2	3	3	1	0	1	2	0	3	1	1	3	20
四肢	15	14	20	7	13	6	11	8	5	6	8	7	120

CTについて

CT室はDiscovery750HDCT(GE)とIQon Spectral CT(Philips)の2台体制で検査を行っている。土、日、休日、夜勤帯は主にDiscovery750HDCTを、日勤帯の冠動脈、PreTAVI、左房はIQon Spectral CTにて行っている。2022年度も、Covid-19対応の頻度が高く、code-C発令の造影CTなど煩雑な検査が多岐にわたって要求され、人数・件数ともに昨年度より5%程度低下した。CTは短時間で簡便に患者さんの全身状態が把握できることから、総件数に占める予外や急患の割合が高い検査である。より柔軟に対応できるように努め、装置更新によって導入された新機能も利用し、High Qualityな検査を提供していきたい。

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度	前年度比[%]
患者数(人)	1142	1119	1189	1179	1126	1189	1204	1242	1131	1201	1143	1286	14151	15361	92
検査件数	2554	2477	2681	2584	2471	2698	2683	2640	2522	2673	2516	2869	31368	32575	96

【詳細】

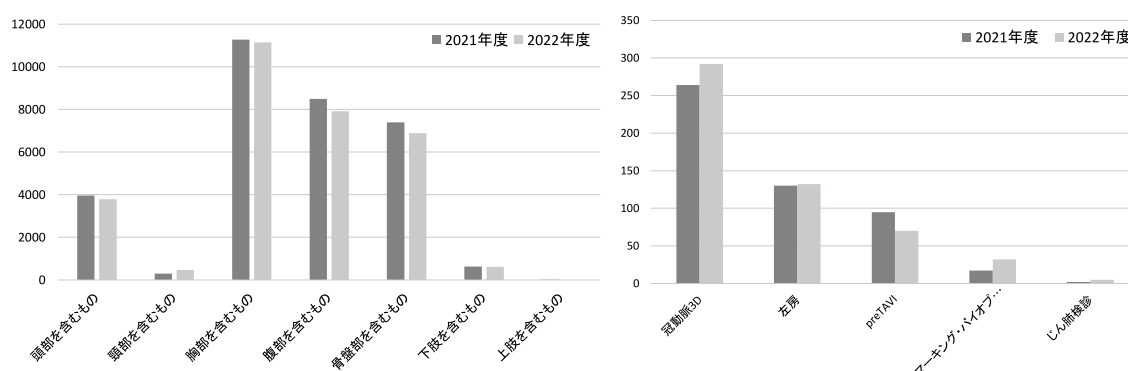
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
頭部を含むもの	単純	294	318	265	260	278	318	270	255	251	288	269	301	3367
	造影	35	35	41	42	26	41	35	32	27	35	38	39	426
頸部を含むもの	単純	22	28	27	23	18	26	25	25	22	14	27	24	281
	造影	14	22	20	17	11	21	16	15	11	12	17	17	193
胸部を含むもの	単純	700	707	771	765	747	780	803	850	750	816	767	886	9342
	造影	160	148	163	136	158	171	164	157	143	130	131	144	1805
腹部を含むもの	単純	462	449	520	507	454	490	512	479	489	522	455	540	5879
	造影	180	158	176	157	166	185	177	175	159	157	169	182	2041
骨盤部を含むもの	単純	409	367	441	424	366	402	422	402	425	446	377	453	4934
	造影	169	151	167	149	159	180	170	168	148	151	167	179	1958
下肢を含むもの	単純	29	27	34	23	21	26	26	15	26	24	19	12	282
	造影	30	21	26	29	20	19	19	27	17	37	38	46	329
上肢を含むもの	単純	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
冠動脈3D	造影	25	27	12	25	25	20	22	28	35	23	24	26	292
左房	単純	13	11	13	14	11	9	14	5	6	11	8	15	130
	造影	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
preTAVI	造影	8	6	1	9	4	7	6	6	9	5	6	3	70
マーキングおよび肺生検	造影	3	1	4	4	6	3	1	0	4	2	2	2	32
じん肺検診	造影	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	2	0	5

～集計方法～

- ・頭頸部3DCTAならば頭部1件、頸部1件 胸腹部骨盤部ならば胸部1件、腹部1件、骨盤部1件となる
- ・昨年度までの四肢末梢血管は「上肢を含むもの」と「下肢を含むもの」の合算となる

～注釈～

- ・左房とはカテーテルアブレーション術前後に行われる左房描出を目的とした検査のこと
- ・pre TAVIとはTAVI(経カテーテル大動脈弁植込み術)術前の大動脈弁およびアクセスルートの描出を目的とした検査のこと



【Covid19のCT対応について】

- ・土日休日、夜勤帯はリニアック棟の放射線治療計画用CTにて対応
- ・日勤帯は本館棟1Fもしくはリニアック棟のCTにて対応
- ・造影CTは日勤帯に本館棟1FのCTにて対応

血管造影

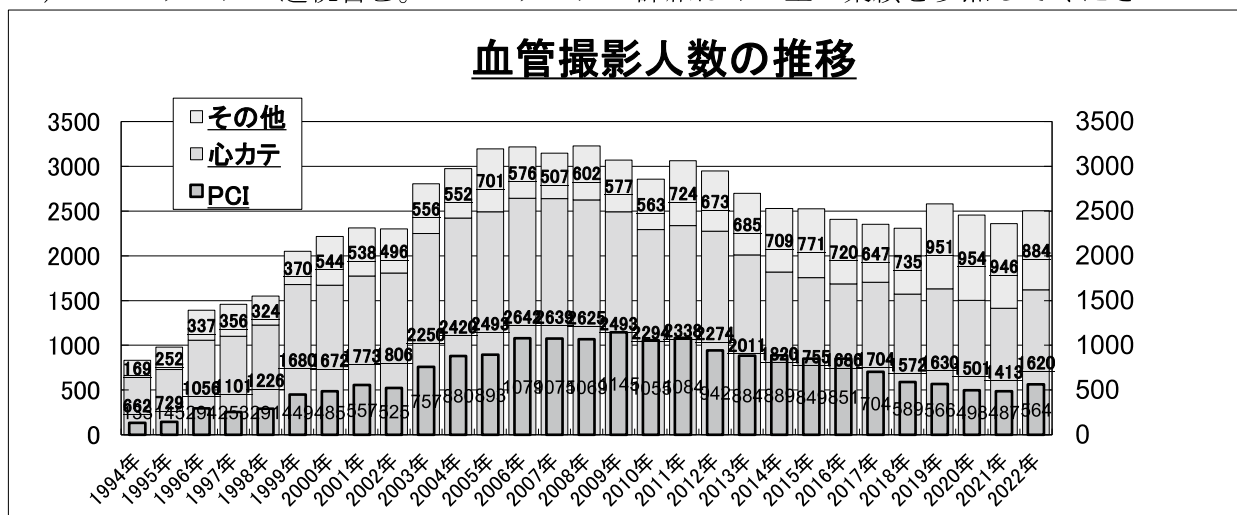
心臓カテーテル室、ハイブリット手術室および外科用イメージ装置を用いて、心臓カテーテル検査・治療(PCI)、経カテーテル大動脈弁留置術、経皮的僧帽弁クリップ術、経皮的動脈弁形成術、慢性肺動脈血栓性肺高血圧症に対するバルーン肺動脈形成術、脳血管内手術、経皮的脳血栓回収術、下肢・シャントPTA、カテーテルアブレーション、急性動脈閉塞に対する血栓除去術、ペースメーカー植込み・交換等の業務に従事している。

昨年度もCovid-19患者受け入れによる診療各科の間欠的な受入制限はあったが、カテーテル総件数は約6%増であった。前年度に対しカテーテルPCIは約16%の増加、アブレーションは6%の増加、ペースメーカーは7%増加、頭頸部は前年同様、ステントグラフト内挿術は28%の減少、PTAは30%の減少、急性動脈閉塞に対する血栓除去術は約20%減少した。

2022年4月－2023年3月

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月	合 計
総患者数	227	208	216	226	191	186	198	205	220	222	180	225	2504
心血管造影患者数	147	130	135	144	130	114	119	135	162	150	120	134	1620
診断カテーテル	95	80	93	101	85	70	81	83	94	98	82	85	1047
心血管 I V R (PCI)	52	50	42	43	45	35	38	52	68	52	38	49	564
POBA	51	50	42	42	45	35	38	51	68	52	38	49	561
ステント	49	47	39	38	39	30	28	48	60	47	37	45	507
ロータブレード	3	3	6	2	1	3	2	6	8	3	2	7	46
ダイヤモンドバ	2	3	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	8
エキシマレーザ	5	6	5	3	3	5	4	3	4	0	2	1	41
DCA	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
PTCR	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PT SMA	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
BPA	7	6	8	6	5	8	8	6	5	5	8	4	76
PTAV	2	7	3	5	0	0	3	3	4	3	1	4	35
TAVI	7	4	8	3	7	7	7	6	7	5	7	6	74
Mitra Clip	3	2	1	3	1	0	0	2	1	2	3	3	21
WATCHMAN	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
頭頸部血管造影患者数	21	23	14	25	14	17	18	18	13	13	22	25	223
造影検査(診断)	14	15	10	10	9	8	7	12	10	4	14	11	124
頭頸部 I V R	7	8	4	15	5	9	11	6	3	9	8	14	99
胸腹部末梢血管造影患者数	62	44	60	36	49	46	54	41	35	38	42	50	557
造影検査(診断)	21	10	19	14	25	16	15	11	15	12	14	19	191
胸腹部末梢血管 I V	41	34	41	22	24	30	39	30	20	26	28	31	366
術中血管造影検査患者	60	42	47	42	41	37	48	44	37	43	39	51	531
術中Cアーム透視*	11	12	12	12	7	7	12	10	10	12	14	13	132
バルブシネ患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アブレーション患者数	11	13	15	14	15	15	13	13	13	11	10	13	156
E P S患者数	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	0	5
他院画像動画サーバ取込	2	8	2	3	3	3	5	1	2	0	2	5	36
心血管以外の I V R	48	42	45	37	29	39	50	36	23	35	36	45	465

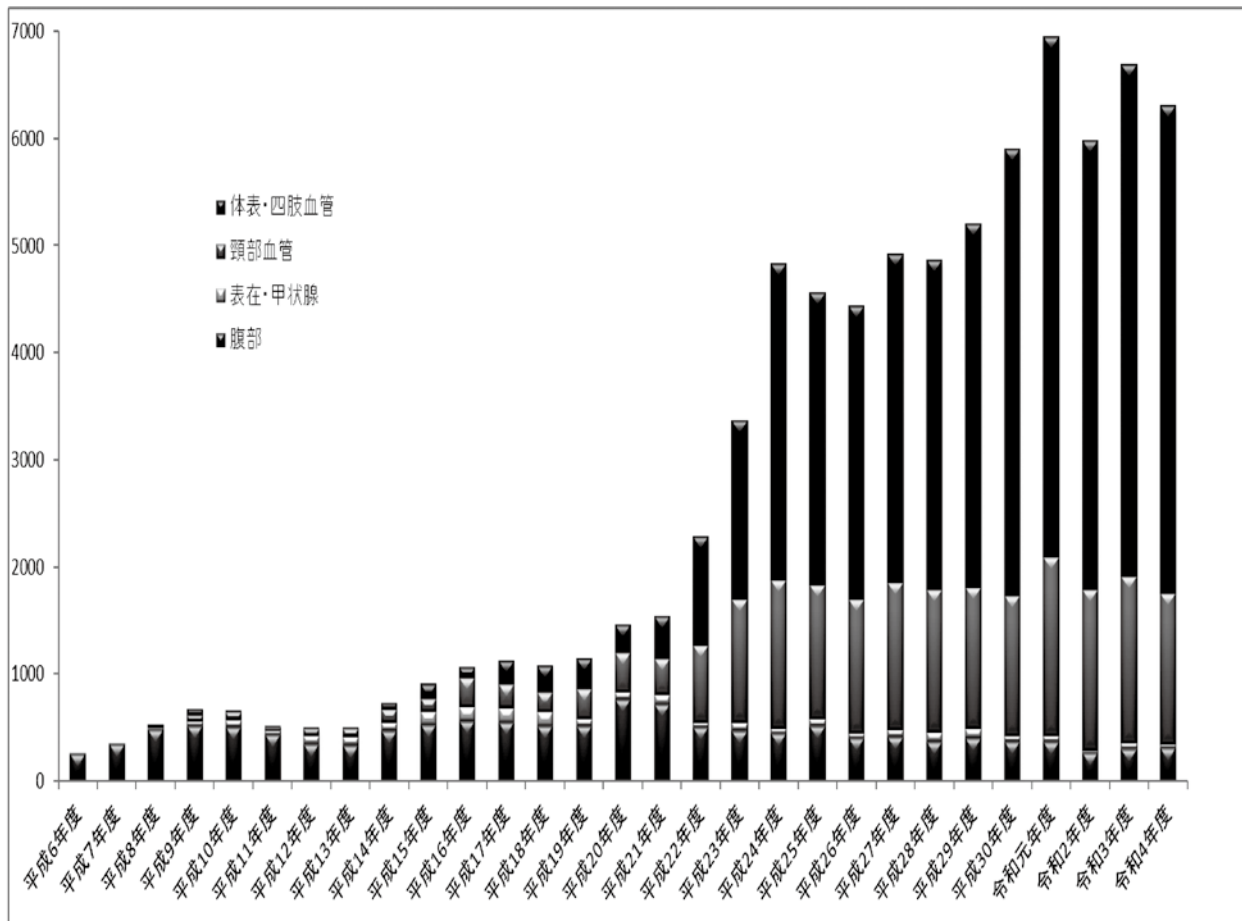
*) ペースメーカー透視含む。ペースメーカー詳細はオペ室の業績を参照してください



超音波検査 令和4年度

放射線技術部では心エコー、経食道エコーを除く頸部血管、甲状腺・乳腺、腹部、四肢血管を行っている。前年度と比較すると総検査数が5.7%減少したが、過去3番目の検査数であった。今後、新型コロナの終息に伴い、外来・入院患者数等の制限もなくなり検査件数の増加が予想される。次年度も予約枠などの運用面だけでなく、当日の予約外検査や緊急検査に柔軟に対応できるように超音波検査を行える技師の数をより増やし、検査の質が向上すべく努力していきたい。

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比[%]	増減[%]	
合計	562	540	606	542	456	511	496	549	481	505	502	551	6301	94.3	-5.7	
部位	腹部	20	21	25	24	25	36	36	35	24	16	17	29	308	101.3	1.3
	表在・甲状腺	4	3	2	2	3	4	3	5	3	4	4	1	38	73.1	-26.9
	頸部血管	124	140	145	122	94	113	98	111	109	115	114	126	1411	90.9	-9.1
	体部・四肢血管	414	376	434	394	334	358	359	398	345	370	367	395	4544	95.2	-4.8



RI検査

RI検査室業務総人数は前年度より15%増となっている。肺血流シンチが14%、心筋シンチが42%、骨シンチが37%を占め当センターの特色を示している。負荷心筋シンチは注射とSPECT撮像を各々2回実施する安静負荷同日法のため、延べ検査数は下表の4倍となる。2020年以降のCovid-19感染症による外来患者、手術患者数の減少の影響がやや緩和してきており全体的な検査数が増加している。TL+BMIPPシンチの検査数は前年より23%減少した。負荷心筋シンチは前年度より13%増加した。骨シンチは39%増加した。腫瘍シンチは26%増加した、脳血流シンチは55%増加した。

(単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総 患 者 数	83	77	109	80	70	83	90	90	74	86	70	86	998
脳血流シンチ	2	1	4	0	1	5	2	4	3	5	4	3	34
甲状腺シンチ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安静心筋シンチ	0	2	0	0	2	4	3	2	0	0	0	0	13
安静心筋シンチ (TL+BMIPP)	8	9	14	10	8	11	12	14	16	19	6	10	137
負荷心筋シンチ (負荷安静同日法)	24	17	28	22	22	22	23	17	23	20	23	26	267
肺血流シンチ	19	13	16	9	8	11	13	16	4	10	13	10	142
肺換気シンチ	2	0	1	1	0	0	1	0	0	2	0	0	7
レノグラム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨シンチ	28	32	41	33	28	28	34	33	26	29	22	35	369
ガリウムシンチ	0	3	5	5	1	2	2	4	2	1	2	2	29
副腎皮質・髄質シンチ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

放射線治療

2022年度は、新患者110人、総人数1827人であった。Covid-19による患者制限は、今年度も継続された。また、4/2～7/18までの間、リニアック装置更新に伴い放射線治療を停止した。これらの影響により総人数は、コロナ禍前の約半数であった。部位別にみると、1.胸部、2.乳腺、3.骨軟部、4.泌尿器、5.脳脊髄の順であった。1位の胸部は当センターの患者様が主体であるが、2位乳腺、4位泌尿器(前立腺)などは熊谷、行田、小川、秩父地方などの医療施設からの紹介である。そのため県北地域の放射線治療を行うことのできる認定施設として重要な役割を担っている。またこの統計にはないが放射線治療後フォローアップの診察も行われている。装置が更新され、より高精度な放射線治療が行われている。

	新患者110人/年												合計(人)
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総人数	2	0	0	45	149	129	216	238	281	154	263	350	1827
脳脊髄	1	0	0	16	5	11	26	10	17	8	20	28	142
脳定位照射	0	0	0	0	0	5	2	0	0	0	1	0	8
頭頸部	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
胸部	1	0	0	16	97	69	66	67	60	51	116	140	683
肺定位照射	0	0	0	0	12	8	0	3	8	0	0	0	31
乳腺	0	0	0	0	16	6	52	77	95	47	42	69	404
食道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腹部	0	0	0	0	0	10	5	3	8	0	0	3	29
泌尿器	0	0	0	0	0	15	42	57	33	6	38	56	247
婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨軟部	0	0	0	13	18	5	23	21	60	42	46	54	282

5 検査技術部統計

令和4年度の検査件数は、1,622,827件で、前年度比109.6%であった。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行による診療体制の影響から落ち込んだ前年度と比較して、若干増加した。

各検査室の詳細は以下の通りである。

1) 生理検査

【生理検査全般】

総件数は、前年度比106.7%であった。年度別検査件数の推移(検査項目別)を示す。

負荷心電図(トレッドミル)・FMDが前年度より検査数が減少した。この原因としてFMDは血管外科医師が入れ替わった影響が大きいと考えられ、その分SPP検査が増加した。

また脳波と精密PSGが大幅に増加した。脳波に関しては、学会等で脳出血後のてんかんなどが注目されている影響が大きいと思われる。精密PSGは武藤副院長発案の「夏枯れ防止対策」により、依頼件数が大幅に増加した。R4年度から入院日数を2泊3日から1泊2日に変更したことで、採算性を良くし収益を上げることが出来た。それ以外の検査は前年度と大きく変わらなかった。

R2年度より検査件数は右肩上がりである。R5年度5月よりCOVID19が5類感染症に移行される。今後コロナ禍以前に戻っていくことを期待しつつも、感染対策を怠らずに検査を実施していきたい。

年度別検査件数の推移(各検査項目別一部抜粋)						(単位:件)	
	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	検査件数推移	R2年度 前年度比 (%)
心電図	19854	19740	17342	17760	19944		112.3
ABI	3711	3856	3662	4104	3694		90.0
ホルター心電図	1009	928	699	700	671		95.9
イベント心電図	287	352	272	280	299		106.8
マスター負荷心電図	431	466	243	190	175		92.1
トレッドミル負荷心電図	800	556	482	371	115		31.0
脳波	17	37	41	74	180		243.2
SPP		53	75	82	126		153.7
FMD			37	85	26		30.6
誘発筋電図(術中MEP)	51	45	100	108	101		93.5
体性感覚誘発電位(術中SEP)	12	72	70	96	95		99.0
一般肺機能	3844	2872	2804	3058	3390		110.9
特殊肺機能	1167	1332	920	1026	1295		126.2
気道可逆性試験	611	699	325	427	426		99.8
モストグラフ	327	460	169	158	134		84.8
呼気中NO濃度	642	813	366	447	488		109.2
簡易PSG検査	121	150	82	118	104		88.1
精査PSG検査	113	104	12	8	50		625.0
合計	33797	33091	28183	29463	31428		106.7

【心エコー検査】

令和4年度の心エコー件数は9,701件、経食道心エコー件数は534件で、総心エコー件数としては10,235件で前年比111%（+1054件）であった。

コロナ渦であるがほぼ全ての検査件数が増加した。（表1、グラフ1）

経皮的動脈弁置換術（TAVI）は実施件数埼玉県下1位、経皮的僧帽弁形成術（Mitral Clip）は実施件数埼玉県下2位であった。（表2）

表1 各年度別件数推移（心エコー、経食道心エコー、総心エコー）

	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	前年比	5年平均
心エコー	7,985	8,942	8,204	8,696	9,701	109%	8,667
経食道心エコー	388	490	444	485	534	110%	468
総心エコー	8,373	9,439	8,648	9,181	10,235	111%	9,175

グラフ1 各検査件数の推移

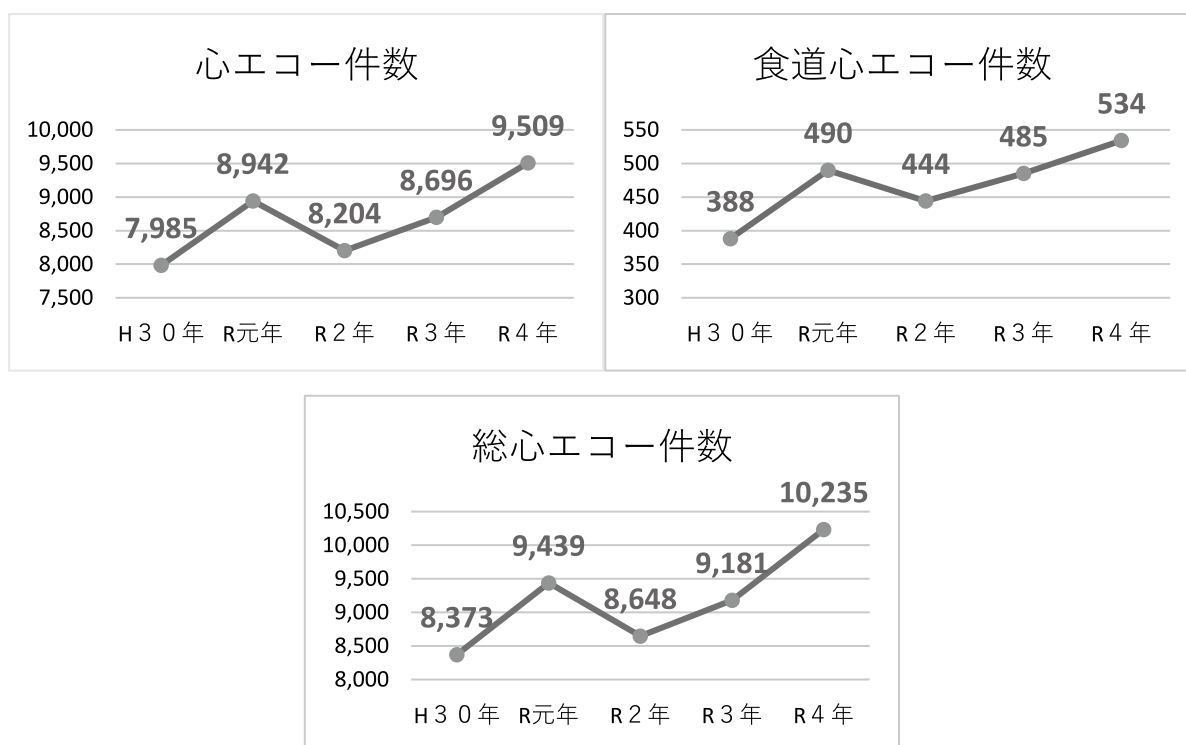


表2 手各年度別件数推移（手術室心エコー、カテ室心エコー）

	R2年度	R3年度	R4年度
経皮的動脈弁置換術（TAVI）	36	65	69
経皮的僧帽弁形成術（Mitral Clip）	18	21	21
左心耳閉鎖術（Watchman）	2	0	2
経皮的動脈弁形成術（PTAV）	25	22	32
経皮的中隔心筋焼灼術（PTSMA）	3	2	1
経皮経静脈的僧帽弁交連切開術（PTMC）	0	1	1

2) 一般検査

R2年度に集計方法を変更したため、R元年度以前と比較すると大きく乖離している。インフルエンザ抗原とマイコプラズマ抗原はR2年度に細菌検査室へ業務移行した。穿刺液は昨年度12月より血液検査室へ業務移行した。

R4年度の総件数は14,017件で前年度比95.8%であった。材料別では尿検査(定性・沈査・他)98.2%、便検査107.8%、髄液・穿刺液一般検査95.7%、抗原検査64.8%であった。尿検査、髄液・穿刺液一般検査、便検査は昨年度と比べ、大きな変化はなかった。抗原検査はCOVID-19の感染者数が減少し、入院患者が減少したため検査数も昨年度より減少していると考えられる。

今後も質の高い検査結果を提供しつつ、コストパフォーマンスも意識していきたい。

表1 一般検査検体数の年度別推移

	(単位:件)					前年度比(%)
	H30年度	H31・R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	
尿検査(定性・沈査など)	20644	22,099	13965	12,694	12,466	98.2
便検査	700	607	497	514	554	107.8
髄液・穿刺液一般検査	353	356	236	257	246	95.7
抗原検査	2379	2,409	1872	1,159	751	64.8
小計	24076	25,471	16570	14,624	14,017	95.8

表2 抗原検査の年度別推移

	(単位:件)					前年度比(%)
	H30年度	H31・R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	
インフルエンザ抗原	1063	957	325			
マイコプラズマ抗原	390	452	204			
尿中肺炎球菌抗原	471	515	675	583	376	64.5
尿中レジオネラ抗原	455	485	668	576	375	65.1
小計	2379	2,409	1872	1,159	751	64.8

3) 生化学検査

令和4年度の生化学総件数は1,102,862件で、前年度1,035,413件からわずかに増加(前年度比106.5%)し、2年続いた減少傾向から増加に転じた。表1に平成30年度から5年間の年度別検査件数の推移を、図1に平成30年度を100とした過去5年間の分類別件数の推移を示した。

項目別にみると、『自動分析』検査は昨年度から7%程度の増加を認めたのに対し、『ガス分析』および『血糖関連』検査は、いずれも昨年度から2-3%以内の増減であり、大きな変化は認められなかった(表1)。各項目ともに多少の件数の増減があるものの、新型コロナウイルス流行以前と比べて90%程度の件数にとどまり、感染拡大による患者数減少の影響が続いているものと推察された。

ICG 停滞率検査は、依頼数が極めて少ないことから院内検査を取りやめ、外注検査へ変更した。また、今年度から新たに腎臓内科・循環器内科の依頼を受け、尿検体を用いた『推定1日食塩摂取量』の検査を開始した。今後も、臨床のニーズに柔軟に対応できるよう、生化学検査室の品質と能力向上に努めたい。

表1 過去5年間の分類別検査件数

年度	H30	R1	R2	R3	R4
自動分析	1,170,813	1,170,629	1,026,510	983,282	1,051,416
ガス分析	4,268	4,383	4,834	3,927	4,037
生化その他	95	132	113	82	89
血糖関連	52,696	54,980	48,279	48,122	47,320
合計	1,228,210	1,230,411	1,079,910	1,035,413	1,102,862

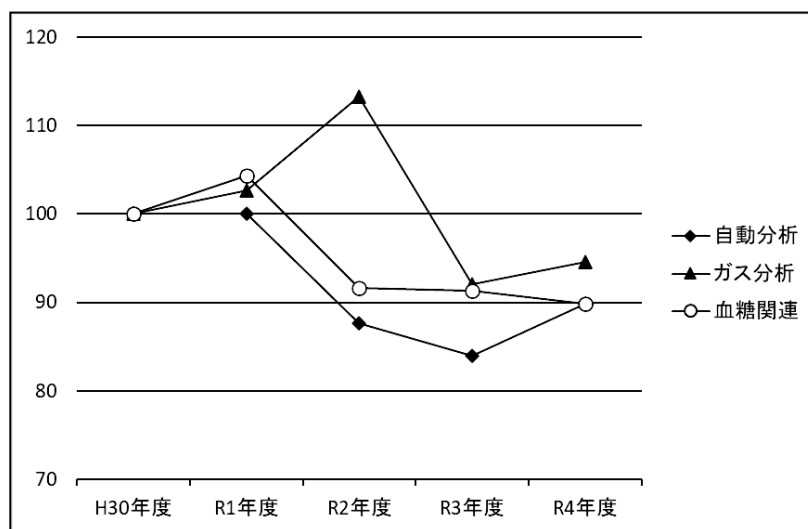
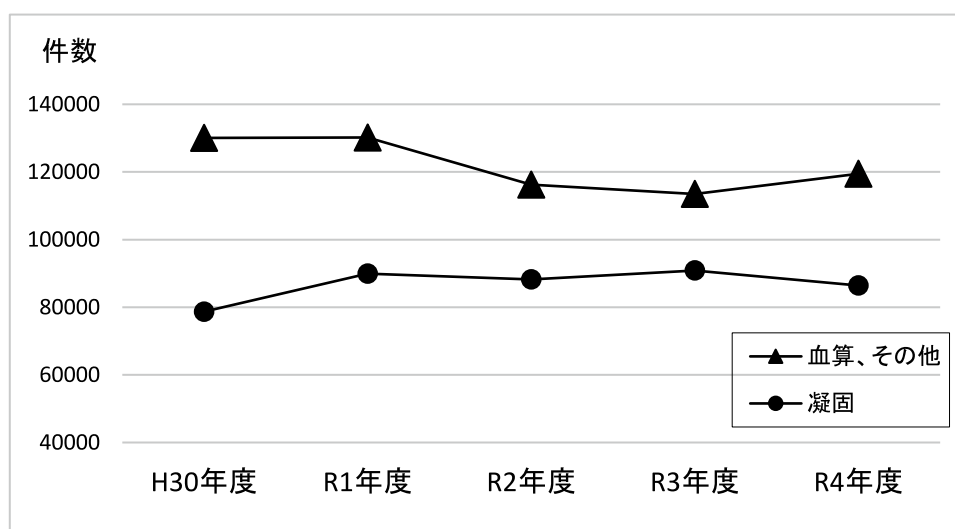


図1 過去5年間の分類別件数の推移

4) 血液検査室

令和4年度の総件数は、205,910件であった。内訳は、血算・その他は119,479件、凝固は86,431件で、前年度比は血算・その他は105.3%、凝固は95.1%となり、血算・その他は件数の増加が認められたが、凝固はDダイマーが若干の増加を認めたが、その他の項目はすべて減少し、特にFDPは75.0%と大きく減少した。

過去5年間の検査件数の推移



血算・その他の検査件数は増加したが、血算や百分率の増加の他に、穿刺液・肺胞洗浄液の Hb、WBC、百分率の大きな増加が認められた。前年度比は穿刺液が 129.4%、肺胞洗浄液は 149.3% であった。これは、新型コロナウイルス流行の沈静や患者受け入れ体制の変化などにより、検査対象者が増えたことが要因と推察される。

凝固は件数の減少が認められたが、D ダイマーは 5 年間増加し続けている。D ダイマーは DIC の診断や血栓塞栓症の診断に重要であるが、COVID-19 においても血栓性病態を評価するマーカーと捉えられており、診療に欠かせない項目であるため検査件数の増加が続いていると思われる。

今後も臨床のニーズに対応するため、迅速かつ正確な検査結果を提供していきたい。また、臨床の要望を取り入れた新規項目の導入にも積極的に取り組み、診療支援につなげていきたい。

過去 5 年間の凝固検査項目別件数

	H30	R1	R2	R3	R4
APTT	23,378	25,871	25,360	27,124	25,583
PT	33,157	36,423	34,670	36,533	34,245
FIB	8,100	8,468	8,488	7,455	7,461
AT	585	492	463	416	390
FDP	3,016	4,492	3,790	2,937	2,204
D ダイマー	10,216	14,100	15,442	16,296	16,455
合計	78,452	89,846	88,213	90,854	86,431

5) 免疫血清検査

令和 4 年度の総件数は 107,111 件で前年度比 109.5% であり、2 年ぶりに増加に転じた。表 1 に過去 5 年分の分類別検査数を、図 1 に平成 30 年度を 100 とした過去 5 年間の分類別件数の推移を示した。

分類別にみると、どの分類においても前年度から増加を認め、特に『腫瘍マーカー』、『薬物血中濃度』、『血清一般』検査の件数は前年度から 10-20% 程度の増加を認めた。『薬物血中濃度』件数の増加については、ジゴキシンの依頼数が昨年度の 1.5 倍に増加したことに起因するものであるといえる。『腫瘍マーカー』件数は、前年度から増加傾向ではあるものの、未だ新型コロナウイルス流行以前の 7 割程度にとどまっており、感染拡大に伴う患者数の減少による影響が続いているものと推察された。

SARS-CoV-2 抗原定量検査は、昨年度が 2602 件（うち患者 1,158 件・職員抗体検査 1,444 件）であったのに対し、今年度 2,803 件（うち患者 2,803 件・職員抗体検査 0 件）と約 2.4 倍に著増した。特に、11 月以降は各月 400 件前後の抗原検査が実施されており、これはクラスターの発生等、院内感染者数の増加を反映した推移であると考えられた。

また、2023 年 1 月より、血清用採血管の統合および免疫検査材料の変更（血清検体から血漿検体への変更）を実施した。この取り組みにより、TAT の短縮や採血量の削減が実現したほか、検体提出後の追加検査項目についても、より柔軟な対応が可能となった。

今後も様々な視点から現在の検査体制を見直し、検査の質向上に努めたい。

表1 過去5年間の分類別検査件数

年度	H30	R1	R2	R3	R4
感染症	27,589	31,050	26,851	26,024	27,678
腫瘍マーカー	24,301	23,094	15,831	14,625	16,105
薬物血中濃度	306	229	384	418	466
血清一般	27,617	28,882	25,668	24,186	28,590
心筋マーカー	32,009	33,191	29,655	29,989	31,469
SARS-CoV-2関連			925	2,602	2,803
合計	111,822	116,446	99,314	97,844	107,111

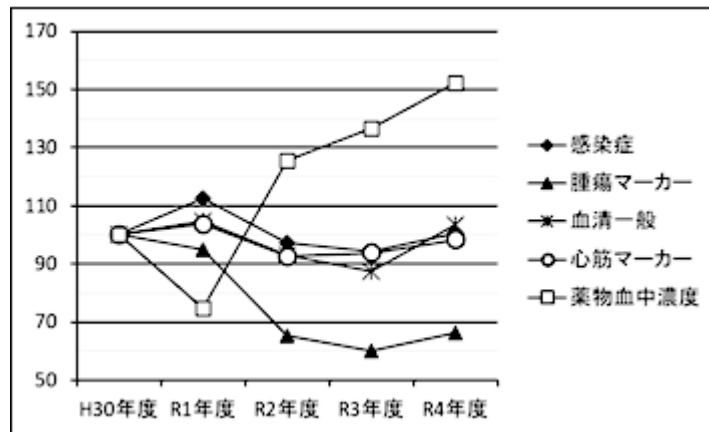


図1 過去5年間の分類別件数の推移

6) 輸血検査

令和4年度における血液型関連検査では、血液型検査が10,551件で前年度比105.2%(+519件)、不規則抗体スクリーニング検査が3,411件で前年度比124.8%(+677件)であった。

クロスマッチ関連検査は9,698件で前年度比82.4%(-2,067件)、血液製剤依頼数は2,547件で前年度比87.5%(-363件)であった。令和4年4月より照射RBC-LRに変更したため、血液照射数は0件であった。

血液製剤使用単位数においてはRBC-LRが4,418単位で前年度比79.9%(-1,110単位)、FFP-LRが2,158単位で前年度比64.5%(-1,186単位)、PC-LRが6,640単位で前年度比67.8%(-3,150単位)とすべての製剤で減少した。

令和4年度からRBC-LRから照射RBC-LRに変更したことにより照射時間待ち(約15分間)がなくなり、迅速な血液製剤払い出しが可能となった。また、通常業務時間内だけでなく時間外(当直時)における輸血検査の更なる安全性の向上を図り、輸血過誤防止を含めた安全な輸血療法の確立に努めた。

表9 輸血検査件数の年度推移

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
血液型検査(ABO、Rh、直・間接法)	6,623	9,615	10,151	10,032	10,551
不規則抗体スクリーニング	3,070	3,085	2,579	2,734	3,411
クロスマッチ関連検査	8,928	10,246	10,268	11,765	9,698
血液製剤照射	2,088	2,030	1,478	1,869	0
血液製剤依頼	2,414	2,606	2,566	2,910	2,547

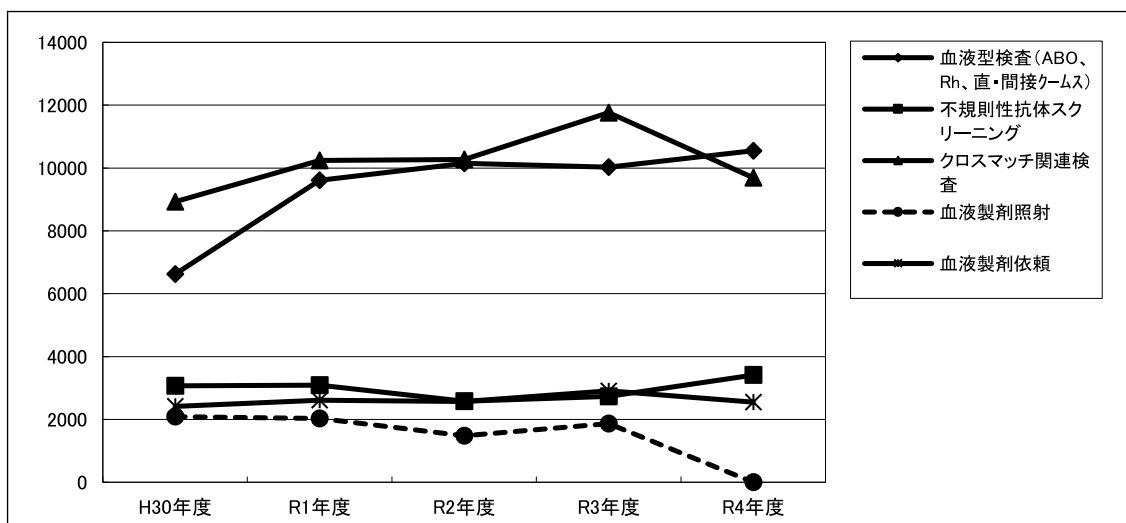


図5 輸血検査件数の年度推移

表10 血液製剤使用数の年度推移 (単位数)

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
RBC (RBC-LR)	4,547	4,876	4,428	5,528	4,418
FFP (FFP-LR)	2,522	2,966	2,584	3,344	2,158
PC (PC-LR)	6,205	7,125	6,375	9,790	6,640
自己血	0	0	0	0	2

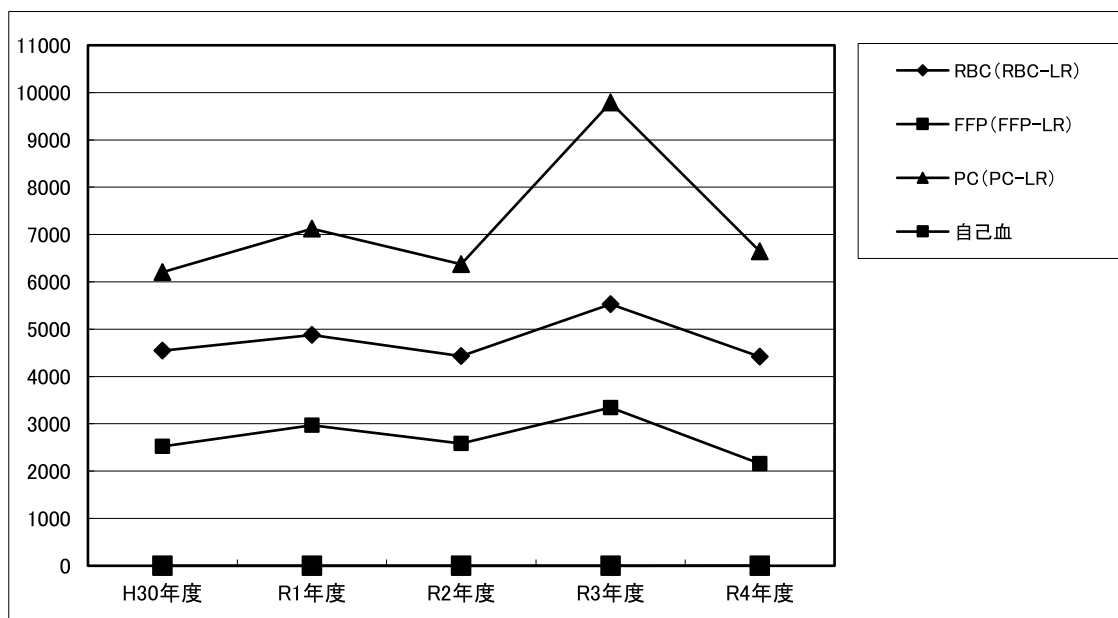


図6 血液製剤使用数の年度推移

7) 病理検査

表10に過去5年間の病理検査の依頼件数の推移を示す。令和4年度の総件数は3,703件であり、総件数は前年度比で124.8%であった。検査種別にみると、組織診依頼数は前年度比122.0%、

細胞診依頼数は前年度比 134.4%、病理がん遺伝子関連検査は前年度比 89.4%であった。病理件数の増加は、新型コロナウイルス感染と通常診療の両立が図れるようになったためと思われる。

組織診検査では呼吸器系を主に、循環器系から血管や心臓弁、脳外科からの脳梗塞血栓の依頼がある。術中迅速病理診断は呼吸器外科手術において 27.3%の症例について実施されており、術中の術式決定に大きく貢献している。免疫組織化学染色の実施された件数は 231 件であり、病理診断の正診率向上に寄与している。細胞診は胸水などを含む呼吸器疾患からの検体が主体で、全ての検体に対して遠心・塗抹・固定などの検体処理を行っている。また、細胞診検体を使用した遺伝子検査依頼も多く、残余検体がある場合はセルブロックの作製および保存に努めている。病理がん遺伝子関連検査では、近年複数項目を同時に検出できる肺癌マルチプレックスが主流となっている。病理解剖は 4 例の実施があった。これら通常検査および解剖のほか、他施設から呼吸器系疾患を中心としたコンサルテーション症例および呼吸器リファレンスラボ症例の受け入れ、研究のための標本作製や PCR 検査等の補助業務も行っている。

また、感染症の遺伝子検査として、SARS-CoV-2 の PCR 検査を実施している。新型コロナウイルス感染が疑われる患者、入院および転院患者、職員とその患者を対象に検査が実施され、6,928 件の検査を実施した。前年度比は 192.0%であり、第 7 波、第 8 波の感染拡大の影響を受けて検査件数が大幅に増加した 1 年であった。

表 1 0 病理検査の依頼件数の年度推移

区分 \ 年度		H29	H30	R 元	R2	R3	R4	前年比 (%)
		(2017)	(2018)	(2019)	(2020)	(2021)	(2022)	
総件数		6,221	5,828	4,722	3,143	2,967	3,703	124.8
総標本枚数		38,543	37,717	30,266	21,803	21,368	30,501	142.7
病 理 組 織 検 査	件数	1,191	1,371	1,119	835	820	1,000	122.0
	生検	588	659	502	375	360	458	127.2
	手術	396	492	514	452	457	542	118.6
	術中迅速診断	198	211	161	109	107	148	138.3
	合計標本枚数	16,311	17,575	13,524	10,202	10,857	16,463	151.6
	一般染色	6,485	7,101	5,681	3,904	4,106	6,074	147.9
	特殊染色	7,459	7,663	6,497	4,826	5,272	7,442	141.2
免疫染色	1,341	1,508	1,346	1,472	1,479	2,947	199.3	
細 胞 診 検 査	件数	3,737	3,060	2,492	1,688	1,571	2,112	134.4
	合計標本枚数	22,232	20,142	16,742	11,601	10,511	14,038	133.6
	一般染色	14,981	13,732	11,276	7,639	6,941	9,100	131.1
	特殊染色	7,050	6,378	5,416	3,946	3,496	4,842	138.5
	免疫染色	201	22	50	16	74	96	129.7
組織診免疫染色件数		209	224	207	175	177	231	130.5
がん遺伝子検査件数		728	749	652	232	219	176	80.4
PD-L1 検査件数		291	315	199	145	130	136	104.6
その他業務件数		70	109	51	67	47	44	93.6
解剖件数		2	4	2	1	3	4	133.3
SARS-nCoV-2 検査件数				49	1,427	3,609	6,928	192.0

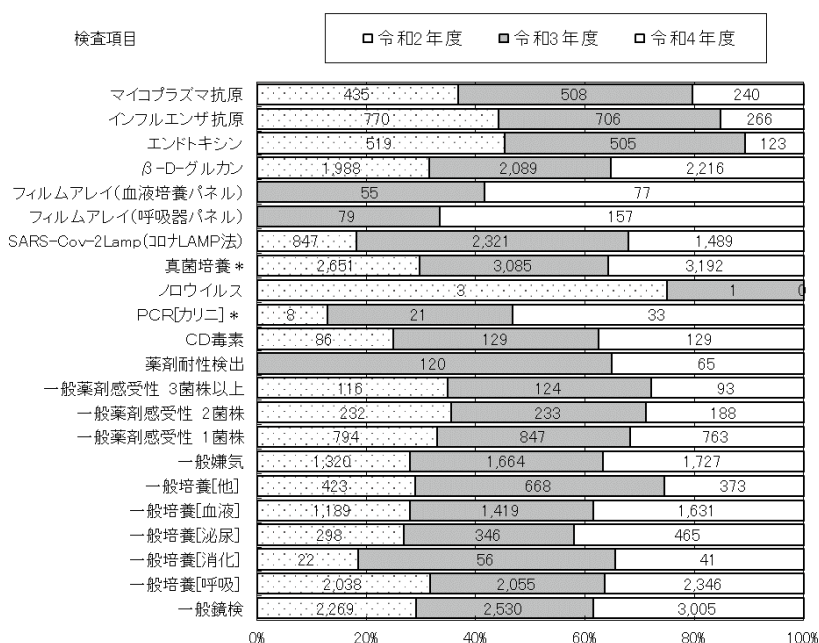
8) 細菌検査

令和4年度、依頼総件数は27,995件(前年度比+5.4%)、稼働点数は5,781,497点であった。(前年度比-15.7%) 内訳は、一般細菌18,619件(-5.1%)、抗酸菌9,376件(+26.2%)であった。

R4	2022年												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
一般細菌	1,418	1,514	1,610	1,670	1,990	1,790	1,678	1,359	1,390	1,191	1,563	1,446	18,619
抗酸菌	625	645	682	746	842	711	1,071	857	723	569	828	1,077	9,376
合計	2,043	2,159	2,292	2,416	2,832	2,501	2,749	2,216	2,113	1,760	2,391	2,523	27,995

【一般細菌検査】

一般細菌検査数の年度別推移



「主な前年度との比較」

- ① 呼吸器系培養検査は、+14.2%の増加であった。
- ② 血液培養検査は、+14.9%の増加であった。
- ③ 泌尿器系培養検査は、+34.4%の増加であった。
- ④ 薬剤感受性検査は1菌株-9.9%、2菌株-19.3%、3菌株-25.0%の減少であった。
- ⑤ SARS-COV-2 Lamp【コロナ LAMP 法】は、-35.8%の減少であった。
- ⑥ フィルムアレイ（呼吸器パネル）検査は+98.7%の増加であった。
- ⑦ フィルムアレイ（血液培養パネル）検査は+40.0%の増加であった。
- ⑧ β-D-グルカン検査は+6.1%の増加、エンドトキシン検査は-75.6%の減少であった。
- ⑨ インフルエンザ抗原検査は-62.3%、マイコプラズマ抗原検査は-52.8%の減少であった。

【考察】

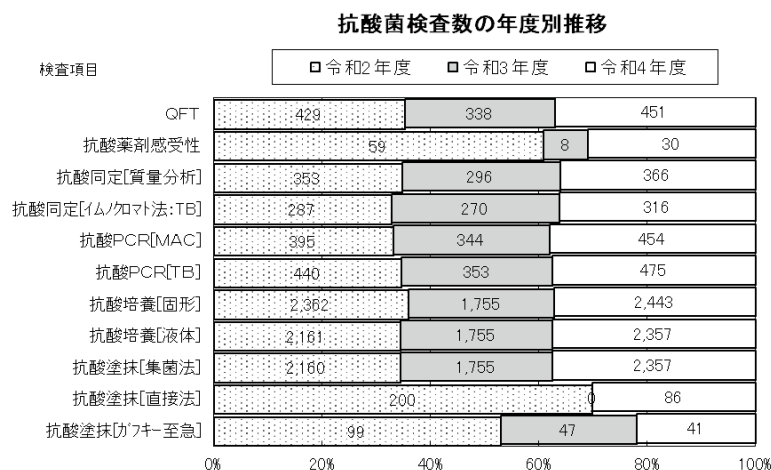
一般細菌検査総依頼件数は前年度比+4.4%の増加であった。新型コロナウイルス対策の継続に重点を置きつつ、各科診療体制の再構築による影響が要因と考える。

一般培養〔泌尿器〕は最も増加率が高かった。脳神経外科より『入院時カテーテル尿検体』依頼増加によるものと思われる。

検体系検査室で『新型コロナウイルス抗原定量検査』を新規導入、コロナ態勢の再編をおこなった。これに伴い、SARS-COV-2 Lamp 検査は『結核病棟入院患者専用』に移行、依頼件数が減少した。

“マルチプレックス核酸検査法”を用いた遺伝子検査『Film Array』は導入2年目となり、呼吸器パネル（鼻腔咽頭スワブに含まれる複数の呼吸器系ウイルス・細菌の核酸を同時・定性的に検出し同定可能）と血液培養パネル（血流感染の原因菌・薬剤耐性の有無を迅速に判定可能）の両依頼件数は着実に増加している。

【抗酸菌検査】



【主な前年度との比較】

- ① ガフキー至急検査は、-14.6%の減少であった。
- ② 抗酸塗抹 [集菌法] 検査は、+25.5%の増加であった。
- ③ 抗酸培養 [液体] 検査は、+25.5%、同 [固形] 検査は、+28.2%の増加であった。
- ④ 抗酸 PCR [TB] 検査は、+25.7%、同 [MAC] 検査は、+24.2%の増加であった。
- ⑤ 抗酸同定 [質量分析] 検査は、+19.1%の増加であった。
- ⑥ 抗酸薬剤感受性検査は、+73.3%の増加であった。
- ⑦ QFT 検査は、+25.1%の増加であった。

【考察】

抗酸菌検査依頼総件数（前年度比 +5.4%）の増加は、新型コロナウイルス対策は継続しつつ、結核患者の受け入れが再開（A4 病棟）、呼吸器内科診療体制が主な要因と考える。

QFT 検査は患者検体のほか、年間 250 件程度の職員健診（新規採用、異動者、ハイリスク）を実施している。試薬・機器保守を含めた検査体制見直しをおこない、次年度より T.SPOT-TB（外部委託）へ変更となる。

抗酸同定 [質量分析] 検査（外部委託）の増加は、①非結核性抗酸菌症患者の増加と②1 患者から複数菌株を検出する症例が増加していることが要因と考える。質量分析装置（TOF-MS 法）の普及により同定可能な菌種名が著増したことで、抗酸菌症における診療・疫学等への貢献が今後も期待できる。院内検査導入も視野に中長期的な将来の検査体制づくりを考えていきたい。

感染症法の改正に伴い、新型コロナウイルスに対する診療体制が変化していくなかで適時対応できるよう細菌検査体制を整えていきたい。

6 薬剤部統計

1) 調剤薬処方せん取扱数 [表-1]

区分	合計	1日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総計	処方箋枚数	62,964	172.5	4,684	4,918	4,801	5,167	5,153	5,028	5,067	5,336	5,616	5,650	5,545	5,999
	薬剤件数	153,386	420.2	12,142	11,635	11,554	11,851	11,994	11,746	12,042	13,111	14,641	14,066	13,494	15,110
	延剤数	1,346,542	3,689.2	111,993	101,430	109,917	98,746	113,806	105,841	102,534	111,837	131,827	116,730	110,368	131,513
入院	処方箋枚数	61,400	168.2	4,550	4,795	4,677	5,047	4,994	4,896	4,945	5,216	5,473	5,532	5,427	5,848
	薬剤件数	148,988	408.2	11,720	11,289	11,198	11,518	11,557	11,354	11,689	12,760	14,260	13,768	13,206	14,669
	延剤数	1,217,242	3,334.9	99,680	91,040	98,782	94,850	99,639	95,147	89,950	100,143	120,884	109,370	100,569	117,188
外来	処方箋枚数	1,564	6.4	134	123	124	120	159	132	122	120	143	118	118	151
	薬剤件数	4,398	18.1	422	346	356	333	437	392	353	351	381	298	288	441
	延剤数	129,300	532.1	12,313	10,390	11,135	3,896	14,167	10,694	12,584	11,694	10,943	7,360	9,799	14,325

(入院365日、外来243日)

2) 予製剤数 [表-2]

区分	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
予製剤数合計	44,329	5,600	2,785	2,738	3,645	4,711	3,106	2,375	3,125	5,613	3,291	3,717	3,623	
内訳	散剤 (剤数)	7,147	1,320	252	900	252	1,292	552	216	336	971	286	294	476
	錠剤 (剤数)	35,290	4,061	2,499	1,675	3,257	3,304	2,383	1,899	2,601	4,492	2,845	3,292	2,982
	水剤 (剤数)	244	20	0	20	20	40	20	40	20	20	20	20	4
	外用剤 (剤数)	1,648	199	34	143	116	75	151	220	168	130	140	111	161

3) 院外処方箋枚数 [表-3]

	年度計	月平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処方箋枚数	34,622	2,885.2	2,739	2,750	2,829	2,772	2,921	2,967	2,826	2,816	3,068	2,919	2,776	3,239
処方箋発行率	95.7%	—	95.3%	95.7%	95.8%	95.9%	94.8%	95.7%	95.9%	95.9%	95.5%	96.1%	95.9%	95.5%

4) 処方せん変更件数 [表-4]

変更項目	年度計	月平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処方日数調整 (変更)	317	26.4	29	33	28	23	22	27	29	32	29	18	23	24
用法の変更	84	7.0	4	8	6	4	10	12	7	6	6	11	5	5
用量の変更 (単位)	112	9.3	10	13	15	6	17	9	7	5	6	9	5	10
剤型の変更	9	0.8	1	0	0	0	2	1	1	2	1	0	1	0
薬の変更	96	8.0	0	3	3	7	13	9	6	7	2	18	18	10
薬品の追加	146	12.2	14	12	9	4	13	14	9	16	13	20	5	17
薬品の削除	170	14.2	7	19	17	4	11	14	12	17	18	19	16	16
処方の削除	10	0.8	0	3	3	0	0	1	2	0	0	1	0	0
院外へ変更	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
院内へ変更	3	0.3	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0
コメント訂正	7	0.6	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	3
その他	211	17.6	11	19	27	19	17	17	19	19	16	12	13	22
合計	1,165	97.1	76	110	108	67	105	106	92	107	91	109	87	107

5) 注射せん・薬品払出し等取扱数 [表-5]

区分	合計	1日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総計	注射箋枚数	78,492	215.0	6,027	5,792	6,032	6,560	6,585	6,988	6,316	6,483	7,056	7,242	6,658	6,753
	注射件数	241,056	660.4	17,774	18,072	18,394	20,673	20,764	22,027	17,526	21,115	20,790	22,660	19,973	21,288
	薬品件数	53,050	145.3	4,196	3,973	4,383	4,488	4,450	4,969	4,094	4,688	4,542	4,229	4,478	4,560
入院	注射箋枚数	73,250	200.7	5,671	5,379	5,643	6,163	6,110	6,548	5,860	6,040	6,601	6,733	6,241	6,261
	注射件数	228,138	625.0	16,977	17,174	17,405	19,657	19,568	20,893	16,357	20,013	19,692	21,440	18,934	20,028
	薬品件数	51,372	140.7	4,062	3,829	4,240	4,359	4,325	4,847	3,937	4,522	4,385	4,083	4,356	4,427
外来	注射箋枚数	5,242	21.7	356	413	389	397	475	440	456	443	455	509	417	492
	注射件数	12,918	53.4	797	898	989	1,016	1,196	1,134	1,169	1,102	1,098	1,220	1,039	1,260
	薬品件数	1,678	6.9	134	144	143	129	125	122	157	166	157	146	122	133

(入院365日、外来242日)

6) 医薬品情報の照会件数 [表-6]

1	医薬品の基本的情報 (名称、採用の有無等) について	11
2	医薬品の薬剤学的な情報 (配合変化、安定性など) について	16
3	医薬品の薬理学的な情報 (副作用、相互作用など) について	37
4	医療保険、一般用医薬品など上記以外の情報について	9
5	持参薬鑑別	6,505
合計		6,578

7) 薬剤管理指導業務 [表-7]

区分	年度計	月平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院患者数	7,233	602.8	554	526	565	586	594	578	607	657	659	640	599	668
請求	患者数	4,643	386.9	345	308	368	374	366	369	391	440	422	395	466
	件数	5,633	469.4	415	395	457	441	448	428	486	518	493	453	593
指導件数	6,321	526.8	445	408	533	491	516	515	506	598	569	518	573	649
退院時薬剤情報管理指導件数	2,414	201.2	174	184	191	238	208	198	151	170	211	212	175	302
退院時薬剤情報連携加算	40	—	0	2	7	4	8	4	4	6	1	3	0	1

8) 抗がん剤等混注取扱数 [表-8]

	合計	1日平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	2,298	9.5	137	145	171	188	203	200	207	213	216	207	186	225
混注件数	3,263	13.4	182	200	242	275	310	290	306	300	296	291	256	315
内訳	外来	患者数	1,314	5.4	82	89	104	109	121	109	121	112	114	130
	混注件数	1,754	7.2	107	108	135	140	165	151	164	149	150	152	183
入院	患者数	984	4.0	55	56	67	79	82	91	86	101	102	97	95
	混注件数	1,509	6.2	75	92	107	135	145	139	142	151	146	139	132
混注件数(抗がん剤以外)	936	—	43	50	65	76	88	86	89	85	91	84	88	91
外来化学療法	指導件数	404	1.7	32	35	36	39	33	25	34	36	33	36	33
	連携充実加算算定件数	291	1.2	27	23	25	26	18	23	22	26	21	27	27
	トレーニングレポート枚数	167	0.7	17	13	15	14	17	10	13	17	11	8	20

※ 抗がん剤以外：制吐剤等の輸液

9) 薬剤委員会実績 [表-9]

回	開催年月日	採用医薬品					院内削除医薬品					差 (A)-(B)
		内服	注射	外用	その他	計(A)	内服	注射	外用	その他	計(B)	
1	2022.05.25	7	1			8	8	1			9	-1
2	2022.08.31	14	6	2		22	9	4	6		19	3
3	2023.09.28	5	3			8	5	1			6	2
4	2023.11.30	2		3		5	6		3		9	-4
5	2023.01.25	5	1			6	5	1			6	0
6	2023.03.22	10		2		12	6	1	1		8	4
合計		43	11	7	0	61	39	8	10	0	57	4

10) 実施受託研究 [表-10]

区分	計	医薬品	医療機器	その他
① 治験	5	5	0	0
② 製造販売後臨床試験	1	0	1	
③ 製造販売後調査	15	12	3	
①、②、③以外の受託研究	8	0	8	
計	29	17	12	0

11) 持参薬の鑑別 [表-11]

区分	年度計	月平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院	件数	3,911	325.9	307	310	300	297	348	318	347	348	333	345	337
	剤数	25,375	2,114.6	2,127	2,042	1,929	1,829	2,246	1,931	2,186	2,188	2,261	2,227	2,209
外来	件数	2,594	216.2	202	199	276	228	193	226	191	234	197	192	251
	剤数	17,790	1,482.5	1,352	1,376	1,913	1,613	1,219	1,590	1,268	1,598	1,375	1,318	1,450
合計	件数	6,505	542.1	509.0	509.0	576.0	525.0	541.0	544.0	538.0	582.0	530.0	537.0	588.0
	剤数	43,165	3,597.1	3,479.0	3,418.0	3,842.0	3,442.0	3,465.0	3,521.0	3,454.0	3,786.0	3,636.0	3,545.0	3,659.0

7 看護部統計

表1 看護部常勤職員年齢分布(令和3年4月1日)

年齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	合計
人数	155	106	113	36	410
構成比	37.8%	25.9%	27.6%	8.8%	100%

表2 病棟別褥瘡予防対策及び発生報告(N=66965:入院延べ患者数)

項目	部署	3E	3W	4E	4W	3C	4B	4C	ICU	CCU	RCU	計
予防対策		16	12	19	10	116	93	113	642	741	251	2,013
発生報告		11	8	8	4	14	24	16	22	3	17	127
院内発生		7	8	3	2	5	14	8	20	0	10	77
持ち込み		4	0	5	2	9	10	8	2	3	7	50
入院延べ患者数		9554	10228	9970	8346	9100	8845	3874	2430	2168	1387	65,902
発生報告(%)		0.12%	0.08%	0.08%	0.05%	0.15%	0.27%	0.41%	0.91%	0.14%	1.23%	0.19%
院内発生(%)		0.07%	0.08%	0.03%	0.02%	0.05%	0.16%	0.21%	0.82%	0.00%	0.72%	0.12%

表3 褥瘡有病率・推定発症率

年度	平成26	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4
褥瘡有病率(%)	1.04	1.41	2.10	2.44	0.81	1.65	2.12	1.97	0.95
推定発症率(%)	0.48	0.76	1.3	1.09	0.47	0.86	1.28	1.26	1.76

令和4年度 循環器・呼吸器病センター教育(研修)体系

循環器・呼吸器病センター 看護部

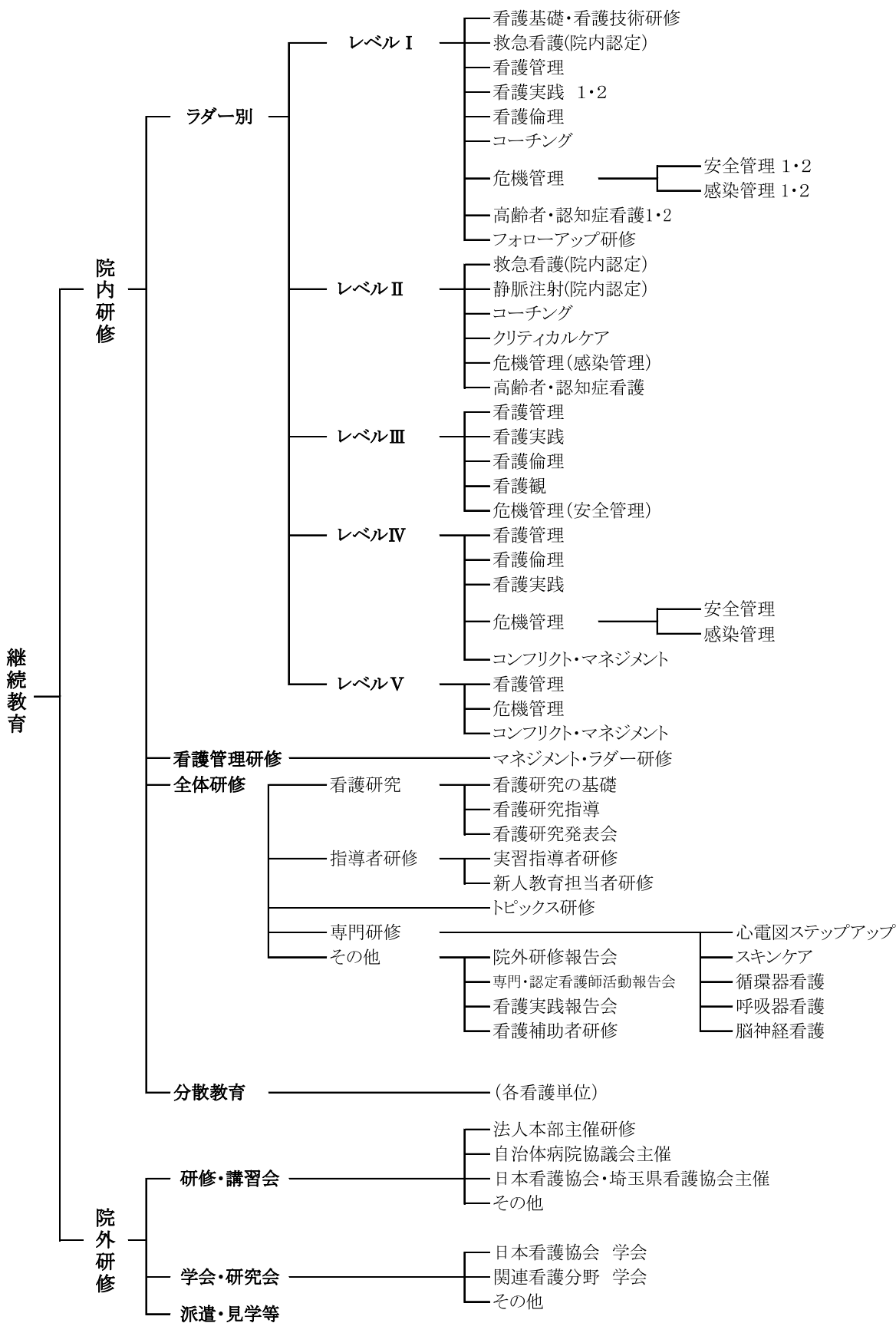


表4 令和4年度 院内教育実績

循環器・呼吸器病センター看護部

研修名	日時	対象者	受講者数	講師	目的・目標
新採用者・異動者研修	4月4日～9日、4月18日、4月19日	I前	36	教育委員会 他	・センター全体および看護部の組織と業務の概要を理解し、職員としての自覚を持つことができる。
	4.38C15.18		35		
	4月12日 活動援助技術		35		
	4月14日 採血・血糖測定		36		
	4月26日 ミキシング等		34		
	4月26日 輸液・シリンジポンプ		34		
	4月19日20日 電子カルテ		47		
	4月27日 採血・血糖測定		34		
	5月2日 与薬の技術	I前	34	師長 教育委員会 認定看護師 他	・基本的な基礎看護技術・センターの特徴的な疾患看護の基礎知識が習得できる ・患者の状態を把握するためのフィジカルアセスメントが理解できる
	5月11日		36		
	5月18日		35		
	6月1日		35		
	7月6日		35		
	10月19日		35		
12月6日		33			
2月8日		31			
看護管理	10月19日	I前	35	関根師長	・メンバーシップについて理解し、チームの一員としての役割を理解し責任をもって行動できる。
看護倫理	5月18日	I前	35	牛島師長	・看護者の倫理綱領について理解できる。・インフォームド・コンセントについて理解できる ・インフォームド・コンセントの実際と看護の役割について理解できる。
看護実践	6月1日 12月6日	I前	35 33	記録委員会	・個別的な看護実践ができる
フォローアップ	5月6日		33		
	7月6日	I前	34	教育委員会	・3ヶ月・6カ月・1年の課題などを明確にする ・看護技術の習得と精神的支援が受けられる
	10月19日		34		
	2月8日		31		
救急看護	6月1日 講義・演習		36		
	7月6日 筆記試験	I前	35	教育担当主任	・救急時の対応の基本的な対応が理解できる ・急変時に必要な基本技術を身につける
	10月5日		34		
高齢者・認知症看護	6月1日		36	牛島師長	
	12月6日	I前	33	桐生大学 佐藤光栄教授	・高齢者および認知症患者の特徴と看護について理解できる
危機管理 (安全管理)	4月11日		35	川上SM	・医療安全に関する基本的知識の理解ができる
	10月19日	I前	35	関根SM	・インシデントの発生状況を知り、その予防対策について理解できる
危機管理 (感染管理)	4月6日	I前	35	大次感染管理 認定看護師	・感染管理に必要な基本的な知識(スタンダードプリコーション、感染経路別予防策、針刺し対応等)を習得し、実践できる
	10月19日	I前	35		・スタンダードプリコーション、感染経路別予防策、針刺し対応ができる
コーチング	12月6日	I前	33	戸森師長	・患者・家族・職員との対話の必要性を理解し、意図的な対話・傾聴ができる。
リーダーⅠ合計			1182		

研修名	日時	対象者	受講者数	講師	目的・目標
救急看護	6月22日講義・演習		38		
	7月28日筆記試験	I	36	教育担当主任 教育委員会	・急変時に必要な基本技術が実施できる ・緊急時の看護師の対応が理解でき実践できる
	11月2日実技試験		37		
静脈注射	6月8日講義		32		
	6月22日筆記試験	I	31	教育担当主任 教育委員会	・静脈注射を安全・正確に実施するために必要な知識、技術の習得ができる。
	9月28日実技試験		31		
コーチング	7月27日	I	33	戸森師長	・患者・家族・職員との対話の中で承認の重要性を理解し、戦略的質問を行うことができる ・戦略的質問を通して相互理解を深め、自己の課題を明確にできる
高齢者・認知症看護	6月15日	I	40	桐生大学 佐藤光栄教授	・高齢者の看護に必要な知識・技術の習得ができる
クリティカルケア	1月18日	I	32	急性・重症患者看護専門看護師 渡邊 好江	・クリティカルケア領域で必要な知識・技術・アセスメント能力を高め、全人的な看護を実践することができる
危機管理 (感染管理)	10月26日	I	31	大次感染管理 認定看護師	・感染管理に関する知識・技術を習得し、実践することができる
リーダーⅡ合計			341		

研修名	日時	対象者	受講者数	講師	目的・目標
看護管理	11月30日	Ⅱ	3	株崎副部長	・様々な看護方式の特徴を理解する ・チームワークにおけるリーダーの役割を理解し、チームリーダーとしての行動がとれる
看護倫理	12月20日	Ⅱ	3	古川師長	・看護倫理について理解し、臨床場面で起こる倫理的問題に気づくことができる。 ・インフォームド・コンセントについて理解し行動できる。
看護実践	11月16日	Ⅱ	1	関口師長	・患者の家族を含め、多職種と連携し、必要な看護が実践できる
看護観	7月20日	Ⅱ	3	古川師長	・先輩看護師の看護観を学び、自己の看護実践を看護理論に基づき客観的に振り返ることができる。 ・自己の看護観を確立し、それを文章化して表現できる。
危機管理 (安全管理)	12月7日	Ⅱ	5	関根SM	・危険予知について理解し実践場面へつなげることができる
リーダーⅢ合計			15		

表4 令和4年度 院内教育実績

循環器・呼吸器病センター看護部

研修名	日時	対象者	受講者数	講師	目的・目標	
レベルⅣ	看護管理	10月12日	Ⅲ	11	川上副部長	・病棟全体の動きを把握し、効果的に活動しリーダーシップが発揮できる。
	看護倫理	8月3日	Ⅲ	19	古川師長	・臨床場面からケア・コンセプトと看護倫理について考えることができる。
	看護実践	11月9日	Ⅲ	25	下田師長	・看護過程を展開し、看護実践事例を通し、成功体験を語るすることができる。
	コンフリクト・マネジメント	11月29日	Ⅲ	13	高橋看護部長	・コンフリクトマネジメントの概念を理解し、看護実践・職員とのかわりの中で活用できる。
	危機管理(安全管理)	7月13日	Ⅲ	15	関根SM	・病棟運営上の危機的状況を理解でき、リーダーシップが発揮できる。
	危機管理(感染管理)	1月11日	Ⅲ	15	大沢感染管理認定看護師	・感染症発生事例の対応・感染アクシデント発生時の対応を理解し、低策を実践することができる。
ラダーⅣ合計			98			

研修名	日時	対象者	受講者数	講師	目的・目標	
レベルⅤ	看護管理	6月29日	Ⅳ	2	高橋看護部長	・組織の目的、仕組み、管理者の役割と機能について理解し、師長の代行および補佐としての役割を果たすことができる。
	危機管理	5月31日	Ⅳ	7	関根SM	・感染症発生時対応・アクシデント発生時対応を理解し、リーダーシップが発揮できる ・病棟運営上の危機的状況を理解できる
	コンフリクト・マネジメント	12月5日	Ⅳ	9	日本医療病院機能評価機構 遠田光子	・コンフリクト・マネジメントの概念を理解し、様々な実践場面で活用することができる
ラダーⅤ合計			18			

ラダーⅠ～Ⅴ延受講者数	1654名
-------------	-------

研修名	日時	対象者	延受講者数	講師	目的・目標	
専門研修	心電図ステップアップ	6月3日 6月24日 7月15日	全職員	87	笠井美穂 宮尾真奈美	・心電図の基礎知識を習得し、心電図から得られる情報を看護実践に活かすことができる。
	スキニングケア	11月21日 12月13日 1月18日	全職員	95	川上幸子 下田純子 石毛 圭輝	・スキニングケア領域の看護実践に必要な基礎から応用の知識を学び、日常の看護に活かすことができる
	循環器看護	7月6日 7月20日 10月5日 10月26日	全職員	110	笠井美穂 宮尾真奈美 大久保敦子 林 恵子	・循環器疾患患者のたどる経過を学び、病態を理解し実践に活かせる看護の質の向上を目指す
	呼吸器看護	10月7日 10月28日 11月11日 12月9日	全職員	120	下田純子 古川佳子 岩田由美子 野口雅子	・呼吸器疾患患者に関する病院全体の関心を高め、看護の知識・技術を身につけ、看護の質の向上を目指す。
	脳卒中の治療と看護	10月18日 11月15日 12月20日 1月11日	全職員	92	岩田由美子 野口雅子 (院外講師) 木村直矢子 千葉幸一	・脳卒中の急性期の病態を理解し、脳卒中患者に関する専門的知識、技術、態度を習得し、専門性の高い看護を実践する能力を育成する。
	選択研修合計			504		

研修名	日時	対象者	受講者数	講師 担当	目 標 および 内 容	
その他	マネジメントラダー	10月24日 11月10日 11月29日 12月16日 1月13日 1月20日 1月31日 2月6日 2月17日	看護師長・副師長・病棟主任他	163	木島明美氏等 (院外講師)	・看護管理実践のスキルアップを図るための専門的な知識・技術を修得することができる。 ・看護管理におけるキャリアアップのための自己啓発に結び付けることができる。
	看護研究の基礎	7月1日 7月8日 10月31日 12月26日 1月31日	全職員	5	株崎副部長 看護研究委員会	・看護研究計画書が作成できる ※看護研究に協同研究者として参加研究のプロセスが理解できる。 ※(eラーニング看護研究コースの視聴 第1回～9回は視聴し看護研究を実践する)
	看護研究報告会	3月2日	全職員	77	看護研究委員会	・研究成果を共有し、さらなる研究へ結びつけることができる
	院外研修・認定看護師活動報告会	3月15日	全職員	51	教育委員会 認定看護師	・院外研修での学びを共有できる ・認定看護師の活動および成果を知り、共有できる
	看護実践報告会	1月(ポスター掲示)	全職員	373	看護業務改善委員会	・看護の質向上のための各看護単位での看護実践の取り組みを知り、その成果を共有できる
	新人教育体制研修	3月8日、3月15日	新人教育チーム	51	教育委員会	教育指導体制を理解し、チームで新採用看護師などの育成支援体制を作ることができる。

表5 令和4年度 専門看護師・認定看護師活動報告書1

活動実績：令和5年3月末日現在

看護分野別活動内容				
認定分野 氏名 認定年度	がん看護・がん疼痛看護 (1名) 山戸千枝 山戸千枝 (認定：H18、専門：H24)	皮膚・排泄ケア (1名) 川上幸子 (H19)	糖尿病看護 (2名) 石毛圭輝 (H20) 藤井基広 (H28)	がん化学療法看護 (1名) 下田純子 (H20)
活動概要	(1)実践 ①がん看護相談 (2)相談 ①医療スタッフに対し、がん患者の地域医療連携に係わる相談 (3)調整 ①地域の保健医療福祉に携わる方々との連携・調整 (4)倫理調整 (5)倫理カンファレンス参加 (5)指導/教育 ①研修講師 (6)研究	(1)実践 ①褥瘡対策チームとして褥瘡予防発生した患者のケアに関わる。 褥瘡発生報告率：0.20% 院内褥瘡発生率：0.12% (2)相談 ①創傷を持つ患者のケア相談 ②創傷を持つ患者の退院に向けてのセルフケア指導相談 (3)指導 ①創傷に対する相談依頼による提案。	(1)実践 ①所属病棟での看護実践 ②血糖管理に関する医師との調整 ③フットケア外来 (第1・第3火曜日、第2・第4金曜日) (2)相談 ①院内ラウンド ②病棟看護師からのコンサルテーション ③医師からのコンサルテーション (3)指導 ①院内・院外の研修講師	(1)実践 ①外来化学療法室や外来・病棟での看護実践 ② 外来化学療法をはじめ化学療法看護における環境整備、各部署との調整 ③各委員会との連携 ④がん患者指導管理科1・2算定面談 ⑤看護外来担当(不定期) (2)相談 ①院内ラウンド ②相談や依頼を受けて病棟へ訪問 (3)指導 ①院内・看護学校等の研修講師
実践件数	実践件数	1 実践件数	0 実践件数	236 22
	(実践内容) 意思決定支援：1件	(実践内容) 病棟配属ではない為実践報告なし	(実践内容) (1)所属病棟における看護実践 38件 インスリン調整・指導、下肢処置、療養指導等 (2)フットケア外来件数：198件	(実践内容) (1)呼吸器内科外科病棟・外来・外来化学療法室の整備、薬剤部との連携を図り投与管理に関する問題や副作用に関する問題への介入、セルフケア支援、意思決定支援を行っている。 (2)病棟業務化学療法実施病棟に対し、依頼を受けラウンドを行っており、直接介入を行っている。
相談	相談件数	10 相談件数	72 相談件数	71 相談件数
	(相談内容) 受診相談に係わる相談：3件 転院/在宅調整に係わる相談：5件 病診連携に係わる相談：2件	(相談内容) 褥瘡12件 ストーマ35件 皮膚障害25件 下肢病変1件	(相談内容) フットケアに関する相談：52件 糖尿病の療養指導に関する相談：2件 インスリン自己注射・血糖測定に関する相談：7件 血糖コントロール・低血糖に関する相談：6件 その他：4件	(相談内容) 殺細胞薬副作用対策：6件 分子標的薬副作用対策：1件 意思決定支援：1件 その他：3件
指導	指導件数	3 指導件数	1 指導件数	4 指導件数
	(1)研修講師 (院内) ①ラダー1研修 「痛みのある患者の看護」 (院外) ①埼玉県立高等看護学院 「生と死を支える看護」計5回 ②埼玉県看護協会主催研修 「看取りにおける看護師の役割」1日	(1)研修講師 (院外) ①認定看護師講師依頼1件 特別老人ホーム「虹の郷」褥瘡予防	(1)研修講師 (院内) ①新採用者研修 「専門看護師・認定看護師について」(石毛) 「インスリン療法を受ける患者の看護」(藤井) ②専門研修「スキケンア」(石毛) (院外) ①埼玉県立高等看護学院(藤井) 「成人看護学 方法論Ⅳ 糖尿病患者の看護」計4回	(1)研修講師 (院内) ①ラダー1研修「呼吸器看護」 ②ラダー1研修「看護実践Ⅲ」 ③専門研修「肺がん患者の看護」 ④専門研修「化学療法中のスキケンア」 (院外) ①埼玉県熊谷医師会看護専門学校講師 「呼吸器疾患患者の看護」計5回 ②秩父看護専門学校講師 「呼吸器疾患に障害のある患者の看護」計2回
その他	(1)研修会・学会参加 ①日本CNS看護学会 ②日本エンドオブライフケア学会学術集会 ③日本のホスピス50周年記念シリーズ講演 「『病院で死ぬということ』から30年-変わったこと、変わらなかったこと、そしてこれからのこと」 ④第10回行動科学セミナー参加 「人はなぜ自ら命を絶つのか」 ⑤医療メディエーター養成講座受講 (2)その他 ①専門看護師更新認定 (2回目)	(1)委員会活動 ①褥瘡対策チーム ・会議の出席 ・MDRPUの集計 ・褥瘡発生率の集計 ・褥瘡予防・治療に関する相談指導	(1)委員会活動 ①NST会議(藤井) ②専門看護師・認定看護師会議(石毛) ・専門・認定看護師通信の発行 ・医療相談 ・活動報告会 ③フットケアメディカルカンファレンス ④看護研究委員会(藤井) (2)学会・研修会参加 ①日本糖尿病教育・看護学会学術集会(石毛) ②日本フットケア・下肢救済学会学術集会(藤井)	(1)委員会活動 ①化学療法委員会 ②専門看護師・認定看護師会議 ・専門・認定看護師通信の発行 ・活動報告会 (2)薬剤部との定期的な情報交換 (3)学会・研修会参加 ①日本肺病学会

表5 令和4年度 専門看護師・認定看護師活動報告書2

看護分野別活動内容				
認定分野 氏名 認定年度	緩和ケア (2名) 古川佳子 (H23) 大久保敦子 (H25)	慢性心不全看護 (2名) 笠井美穂 (H24) 宮尾真奈美 (H28)	感染管理 (2名) 木村めぐみ (H25) 大沢朋子 (H27)	集中ケア (1名) 岩田由美子 (H29)
活動概要	(1)実践 ①所属病棟での看護実践 ②がん看護相談外来 ・がん看護相談、がん患者指導管理料1・2算定の面談 (2)相談 ①院内ラウンド ②認定看護師活動依頼書や電話で相談依頼を受け、対応する。 (3)指導 ①デスクケースカンファレンス参加やケースカンファレンス参加 ②スタッフへの緩和ケアに関する技術指導 ③院内外研修講師	(1)実践 ①所属病棟での看護実践 ②心不全再入院患者の増悪予防の支援 ③終末期心不全患者の精神的支援 ④初回心不全患者の自己管理能力アセスメント (2)相談 ①院内ラウンド ②患者支援などの相談を受け、問題解決の提案・実践を行う (3)指導 ①院内研修講師 ②看護学校講師 ③院内外研修講師	(1)実践 ①感染症発生時の感染防止対策(標準予防策の徹底、感染経路別に準じた対応、環境清掃等) ②サーベイランス ③ICTラウンド ④職業感染防止(針刺し・切創による血液・体液曝露、結核曝露、COVID-19等) ⑤抗菌薬適正使用支援の実・Q6-R7施 ⑥感染管理に関する物品の検討 ⑦新型コロナウイルス感染症対応 (2)相談 ①院内全ての職員や他院からの相談を受け、医療関連感染低減を目的とした介入 ②職員がCOVID-19等に感染した際の対応 ③抗菌薬に関する相談対応 (3)指導 ①院内・院外研修講師 ②感染症、感染予防に関する職員への指導 ③COVID-19クラスターが発生している病院、施設への指導	(1)実践 ①生命の危機状態にある患者および家族に対する看護実践 ②所属病棟での活動 ③RSTラウンド ④SOFAスコアフローチャートに基づき記録 ⑤早期離床リハビリテーション加算導入・取得 (2)相談 ①集中ケア領域の生命の危機状態にある患者および家族に対する看護実践に関する相談をうけ提案・実践を行う ②集中ケア領域のスタッフ教育に関する相談をうけ勉強会・シミュレーションを実践を行う ③集中ケア領域病棟ラウンド ④一般病棟からのNPPVについての相談をうけ、提案・実践を行う (3)指導 ①院内研修講師 ②院外研修講師 ③看護学校講師
実践件数	実践件数 (実践内容) がん患者相談：10件 その他：6件	16 実践件数 (実践内容) (1)自己管理のアセスメント24件 (2)精神的支援：1件 (3)再入院患者の増悪予防支援：1件 (4)心不全増悪のアセスメント：1件 (5)その他：2件	29 実践件数 (実践内容) サーベイランス：89件 院内ラウンド：79件 感染防止対策(標準予防策・接触・飛沫・空気)：635件 職業感染防止(結核、インフルエンザ、感染性胃腸炎、流行性角結膜炎、带状疱疹、針刺し・粘膜曝露、COVID-19)：550件 洗浄・消毒・滅菌：270件 ファシリティ・マネジメント：260件 抗菌薬の適正使用支援：12件 その他(検査、看護手順、病原体に関すること等)：573件	232 実践件数 (実践内容) 呼吸ケアサポートチームラウンド：232件 (ラウンド詳細) ・呼吸ケア ・人工呼吸器について ・早期離床について ・急性期の栄養管理について ・鎮静・鎮痛コントロールについて ・ポジショニング・体位変換・ドレナージ ・口腔内の保湿・保清について ・勉強会について
相談	相談件数 (相談内容) 疼痛：15件 呼吸困難：1件 精神的ケア：6件 家族ケア：3件 その他：9件	33 相談件数 (相談内容) 療養支援1件 生活指導2件	3 相談件数 (相談内容) 新規：2482件 継続：7件 (相談内容) 感染防止対策(標準予防策・接触・飛沫・空気)：680件 職業感染防止(結核、インフルエンザ、感染性胃腸炎、流行性角結膜炎、带状疱疹、針刺し・粘膜曝露、COVID-19)：515件 洗浄・消毒・滅菌：340件 ファシリティ・マネジメント：295件 抗菌薬に関する相談：14件 その他(検査、看護手順、病原体に関すること等)：645件	2489 相談件数 (相談内容) ・脳疾患患者のドレナージ管理と看護ケア13件
指導	5 指導件数 (1)研修講師(院内)OJT講師 ①ラダーⅠ研修「終末期の看護」(大久保、古川) ②専門研修「肺がん患者の看護」(大久保、古川) ③専門研修「循環器疾患患者の緩和ケア」(大久保) ④ラダーⅡ・Ⅲ研修看護倫理(古川)(院外) ①熊谷医師会看護専門学校講師『ターミナルケア』(合計3回：大久保)	22 指導件数 (1)研修講師(院内) ①新採用研修「循環器疾患と看護」(笠井) 「フィジカルアセスメント」(宮尾) ②選択研修「実践に活かせる心電図看護を学ぼう」計3回(笠井・宮尾) ③選択研修「実践に活かせる循環器看護を学ぼう」計4回(笠井・宮尾)(院外) ①埼玉県熊谷医師会看護専門学校講師計4回(宮尾) ②埼玉県立高等看護学院 計2回(宮尾) ③埼玉県看護協会「虚血性心疾患と看護」(笠井) ④上尾市医師会上尾看護専門学校 計4回(宮尾・笠井) ⑤認定看護師派遣事業 所沢ハートセンター「心不全の再入院予防」(笠井) ⑥疾病対策課心不全に関する地域研修会(笠井・宮尾)	36 指導件数 (1)研修講師(院内) ①看護部研修：5回 ②院内感染対策研修会：2回 ③新採用職員、異動職員研修：5回 ④学生への研修(看護、薬剤師)：5回 ⑤埼玉県主催感染管理実習：1回 ①研修講師：5回 ・看護大学：1回 ・保健所(熊谷・本庄)：2回 ・近隣病院研修会：2回 ②埼玉県感染対策研修会(パネリスト)：1回 ③COMMAT出動：7回 ④病院ラウンド、感染対策指導：5回 (2)感染症に対する標準予防策、感染経路別予防策等の指導	13 指導件数 (1)研修講師(院内) ①CCU勉強会 「脳疾患患者のドレナージ管理と看護ケア」計4回 ②ICU勉強会 「シミュレーションとは」 「アサーションとは」 「接遇」シミュレーション 「人工呼吸器について」 ③専門研修 「実践に活かせる呼吸器看護」 「脳疾患看護」(院外) ④埼玉県立高等看護学院(計3回) 「成人看護 周術期(開心術)」
その他	(1)委員会活動(大久保・古川) ①緩和ケア委員会(休会中) ②専門看護師・認定看護師会議 ・専門・認定看護師通信の発行 ・活動報告会 (2)院外活動 ①ホスピスケア研究会理事(古川) (3)学会・研修参加 ①日本緩和医療学会学術集会(古川・大久保) ②日本死の臨床研究会年次大会(大久保) ③36回日本がん看護学会学術集会(古川) ④日本心不全学会学術集会(大久保) ⑤日本循環器学会学術集会(大久保)	(1)委員会活動 ①専門看護師・認定看護師会議 ・専門看護師・認定看護師通信の発行 ・活動報告会 ②心不全ケア委員会(笠井・宮尾) (2)学会・研修会参加 ①日本心不全学会オンデマンド(宮尾・笠井) ②日本循環器学会 研究発表(笠井・宮尾)	(1)委員会等活動 ①ICC ②TCT、AST ③感染制御リシンカラス会議 ④専門看護師・認定看護師会議 ⑤臨時感染症対策委員会(COVID-19) ⑥COVID-19 Tel-ICU ⑦地域連携感染カンファレンス ⑧RST (2)院外での活動 ①熊谷保健所管内感染症担当者会議 ②埼玉県感染管理認定看護師ネットワーク (3)学会・研修会参加 ①日本環境感染学会オンデマンド参加	(1)委員会活動 ①RST ②専門看護師・認定看護師会議 ・専門看護師・認定看護師通信の発行 ・活動報告会 (2)学会・研修会参加 ①集中治療医学会学術集会 ②クリティカルケア看護学会 ③脳神経外科看護研究会NurCeオンデマンド

表5 令和4年度 専門看護師・認定看護師活動報告書3

看護分野別活動内容				
認定分野 氏名 認定年度	摂食・嚥下障害看護 (1名) 野口雅子 (H30)	透析看護 (1名) 林 恵子 (R2)	手術看護 (1名) 赤沼友希 (H29) 活動休止中	
活動概要	(1)実践 ①所属病棟における看護実践 ②摂食嚥下機能評価 (2)相談 ①院内ラウンド ②相談や依頼を受け、嚥下評価をし嚥下訓練や代償法の提案や食形態の調整、リスク管理についての支援。 ③口腔ケア (3)指導 ①スタッフへの摂食・嚥下技術指導 ②口腔ケア推進会議リンクナースへの指導 ③院内・院外研修講師	(1)実践 ①所属病棟での看護実践 ②腎不全患者のセルフケア支援 ③腎不全患者の意思決定支援の援助(腎代替療法選択や、透析継続に関して) (2)相談 ①院内ラウンド ②患者の支援方法の相談を受け、問題解決の提案・支援を行う。 (3)指導 ①院内研修講師 ②腎不全・透析患者個々に対して指導方法を病棟スタッフを情報交換し指導を行う。	(1)実践	
実践件数	実践件数 (実践内容) (1)実践:73件 ①所属病棟での看護実践 ②脳卒中患者の嚥下機能評価 ③転院や、退院時の継続的な看護支援評価 ④VE, VF評価	73	実践件数 (実践内容) (1)腎不全:3件 (2)血液透析:4件 (3)腹膜透析:2件 (4)腎移植:1件 (5)セルフマネジメント:1件 (6)意思決定支援:2件 (7)その他:2件	14
相談	相談件数 新規:49件 継続65件 (相談内容) 食形態、水分とろみ濃度調整について 間接訓練について 栄養補助食品について 嚥下代償法について 食事介助方法について 食事の環境調整について 食具の調整について 食事姿勢について 家族へ食事介助方法について 代替栄養について 口腔ケア方法について 内服方法について	114	相談件数 (相談内容) ・腎不全予防の指導方法について ・腎不全患者のセルフケア方法について ・腹膜透析患者の感染防御方法について	6
指導	指導件数 (1)研修講師 (院内) ①新採用者研修:「摂食嚥下について」 「口腔ケアについて」 ②3西病棟勉強会「摂食嚥下について」 ③専門研修「脳卒中の看護」 (院外) ①埼玉県看護協会認定看護師派遣事業 摂食嚥下障害のある高齢者の関わり方:介護老人保健施設(全1回) (認定過程教育機関) 群馬バース大学認定教育課程実習指導	5	指導件数 (1)研修講師 (院内) ①分散教育 4E勉強会「透析患者の看護について」 4W勉強会「シャント管理」 ②専門研修 「実践に活かせる循環器看護を学ぼう」計1回 (院外) なし	3
その他	(1)委員会活動 ①RSTラウンド ②口腔ケア推進会議 ③専門看護師・認定看護師会議 ・活動報告会開催 ④摂食嚥下支援チーム活動 (2)学会・研修会参加 ①日本脳卒中学会オンデマンド ②摂食嚥下リハビリテーション学会オンデマンド		(1)委員会活動 ①専門看護師・認定看護師会議 ・専門看護師・認定看護師通信の発行 ・活動報告会開催 (2)学会・研修会参加 ①第2回日本臨床腎臓病看護研究会学術集会実行委員 ②第3回日本サイコネフロジー学会学術集会 ③第6回日本透析医学会学術集会 ④第25回日本腎不全看護学会学術集会	

表6 令和4年度 研修主催者別院外研修派遣実績

	主催者名	コース数	参加人数(人)
1	県立病院機構主催	10	118
2	日本看護協会・全国看護セミナー等	6	8
3	埼玉県看護協会	42	89
4	学会・研究会等	9	32
5	長期派遣研修	4	5
6	その他(地域、管理研修、医療安全 感染管理 他)	4	6
	合計	75	258

※ 長期派遣研修とは、1カ月以上に及ぶ研修派遣期間を再掲している。

表7 令和4年度 臨地実習・研修、病院見学受け入れ実績

	実習・研修等受け入れ内容	実人数(人)	延人数(人)
1	県立高等看護学院 臨地実習	178	1473
2	東都大学 臨地実習	59	446
3	上武大学 臨地実習	29	116
4	病院見学会	27	27
6	インターンシップ	60	60
	合計	353	2122

表8 令和4年度 講師派遣等実績

所属	職名	氏名	従事団体名	場所	内容	従事日(始期)	従事日(終期)
4東	主任	吉田 仁美	聖路加国際大学	東京都	講師	2022/4/20	
3東	主任	大久保 敦子	熊谷市医師会看護専門学校	熊谷市	講師	2022/6/3	2022/6/16
ICU	主任	岩田 由美子	埼玉県立高等看護学院	熊谷市	講師	2022/6/14	2022/7/5
CCU	主任	宮尾 真奈美	埼玉県立高等看護学院	熊谷市	講師	2022/6/15	
4東	主任	藤井 基広	埼玉県立高等看護学院	熊谷市	講師	2022/6/17	2022/6/28
4東	主任	吉田 仁美	聖路加国際大学	東京都	講師	2022/6/17	
看護部	副病院長兼看護部長	高橋 陽子	埼玉県立高等看護学院	熊谷市	講師	2022/9/12	
3東	主査	笠井 美穂	埼玉県看護協会	西大宮	講師	2022/9/14	
看護部	副病院長兼看護部長	高橋 陽子	埼玉県看護協会	さいたま市	講師	2022/9/27	2022/10/26
3C	師長	下田 純子	秩父看護専門学校	秩父市	講師	2022/9/30	
3C	師長	下田 純子	熊谷市医師会看護専門学校	熊谷市	講師	2022/10/5	2022/10/31
CCU	主任	宮尾 真奈美	熊谷市医師会看護専門学校	熊谷市	講師	2022/10/6	2022/10/25
3西	主査	笠井 美穂	埼玉県看護協会	所沢市	講師	2022/10/6	
看護部	副病院長兼看護部長	高橋 陽子	埼玉県立高等看護学院	熊谷市	講師	2022/10/7	2022/11/25
看護部	副病院長兼看護部長	高橋 陽子	埼玉県看護協会	西大宮	講師	2022/11/3	
感染	主査	大沢 朗子	埼玉県看護協会	深谷市	講師	2022/11/11	
地域	主幹	山戸 千枝	埼玉県看護協会	西大宮	講師	2022/12/19	
3東	主査	笠井 美穂	埼玉県看護協会	さいたま市	講師	2023/1/23	
CCU	主任	宮尾 真奈美	上尾医師会上尾看護専門学校	上尾市	講師	2023/2/6	2023/2/13
4東	主査	笠井 美穂	上尾医師会上尾看護専門学校	上尾市	講師	2023/2/20	2023/2/28
4東	主任	吉田 仁美	日本脳神経看護研究学会	御茶ノ水	座長	2022/7/30	
医療安全	主査	大沢 朗子	東都大学	深谷市	講師	2022/6/21	
看護部	副部長	川上 幸子	埼玉県看護協会	熊谷市	講師	2022/12/6	
3東	主査	笠井 美穂	埼玉県看護協会	さいたま市	座長	2022/12/3	
3西	主任	野口 雅子	埼玉県看護協会	児玉町	講師	2023/1/20	
看護部	副部長	株崎 雅子	埼玉県看護協会	さいたま市	講師	2022/12/14	2023/1/20
4東	主任	吉田 仁美	日本ニューロサイエンス看護学会	東京都	講師	2023/2/26	
看護部	副部長	株崎 雅子	NPO法人日本家族関係・人間関係サポート協会	オンライン	講師	2023/2/4	
3東	主査	笠井 美穂	埼玉県保健医療部	オンライン	講師	2023/3/24	
CCU	主任	宮尾 真奈美	埼玉県保健医療部	オンライン	講師	2023/3/24	
看護部	副部長	株崎 雅子	NPO法人日本家族関係・人間関係サポート協会	オンライン	講師	2023/3/19	
4東	主任	吉田 仁美	日本慢性看護学会学術集会	神奈川県	委員	2022/2/1	2023/9/30
外来	主任	林 恵子	日本臨床腎臓病看護研究会	東京都	委員	2022/2/1	2023/3/4
4東	主任	吉田 仁美	日本ニューロサイエンス看護学会	オンライン	委員	2023/1/4	2023/3/31
ICU	師長	牛島 恵里	埼玉県看護協会第1支部	寄居町等	委員	2022/4/1	2023/4/21
A4	主任	幸田 真由美	埼玉県看護協会第1支部	寄居町等	委員	2022/4/1	2023/4/21
看護部	副部長	棚倉 玲子	埼玉県看護協会	さいたま市	委員	2022/6/28	2023/6/16
看護部	副部長	川上 幸子	埼玉県看護協会	さいたま市	委員	2022/6/28	2023/6/16
看護部	副病院長兼看護部長	高橋 陽子	埼玉県看護協会	さいたま市	委員	2022/6/28	2023/6/16
看護部	副部長	株崎 雅子	NPO法人日本家族関係・人間関係サポート協会	オンライン	理事	2022/7/1	2024/6/30

8 栄養部統計

令和4年度 年間食種別食数表

(単位：食)

食種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	構成比(%)
常食菜	3,171	3,079	3,584	3,774	3,316	3,824	3,975	4,676	4,437	3,594	3,949	4,875	46,254	24.9
軟菜	1,179	1,251	993	1,544	1,538	840	721	981	1,406	1,156	1,245	1,128	13,982	7.5
分菜	688	970	648	688	596	764	744	575	506	708	558	653	8,098	4.4
流動菜	6	16	7	29	24	0	14	11	31	36	22	1	197	0.1
濃厚流動食	943	857	982	1,250	1,418	1,880	1,367	1,089	1,113	1,341	1,269	1,145	14,654	7.9
嚥下食	645	1,024	761	508	971	1,101	952	1,426	1,183	960	826	1,069	11,426	6.2
一般術後食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
遅食	196	156	158	129	136	149	204	187	206	249	163	213	2,146	1.2
その他	31	51	27	107	15	152	52	27	88	75	139	32	796	0.4
小計	6,859	7,404	7,160	8,029	8,014	8,710	8,029	8,972	8,970	8,119	8,171	9,116	97,553	52.6
塩分コントロール食	1,108	972	1,097	1,172	942	1,189	1,274	1,259	1,502	1,643	1,259	1,448	14,865	8.0
エネルギーコントロール食	637	667	453	634	323	184	387	324	289	548	497	586	5,529	3.0
塩分エネルギー食	4,488	3,972	4,322	3,860	4,381	3,644	4,297	3,752	4,439	4,648	4,640	4,857	51,300	27.6
腎臓食	355	204	283	528	291	406	311	720	742	925	611	727	6,103	3.3
透析食	827	682	451	534	534	464	630	517	737	825	750	806	7,757	4.2
脂質コントロール食	2	17	3	30	0	21	15	28	40	52	22	84	314	0.2
潰瘍食	0	14	33	0	0	22	91	108	104	0	76	48	496	0.3
上部消化食	10	0	40	39	34	44	39	2	8	22	55	143	436	0.2
下部消化食	45	50	119	154	9	137	53	139	65	98	127	194	1,190	0.6
検査食	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0.0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
小計	7,472	6,578	6,801	6,951	6,514	6,111	7,097	6,850	7,926	8,761	8,037	8,893	87,991	47.4
合計	14,331	13,982	13,961	14,980	14,528	14,821	15,126	15,822	16,896	16,880	16,208	18,009	185,544	100.0

(単位：人)

給食者延数	5,320	5,154	5,202	5,556	5,406	5,521	5,630	5,896	4,730	6,205	5,955	6,610	67,185
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------

令和4年度 栄養指導実施状況

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計	構成比	
個人指導	糖尿病	入院	10	11	4	2	4	4	3	2	7	8	3	58	123	6.8	
		外来	7	8	6	5	7	4	2	2	4	4	4	7			60
		入院非加算		1		2					2						5
		外来非加算															0
	心臓	入院	26	33	38	40	32	24	22	39	28	27	25	47	381	635	35.3
		外来	15	26	17	15	13	25	34	26	25	18	15	22	251		
		入院非加算			2										2		
		外来非加算					1								1		
	脂質異常症	入院		1			1			1		1		1	5	15	0.8
		外来		1	1	1		3			2		1	1	10		
		入院非加算													0		
		外来非加算													0		
	高血圧	入院	5		8	2	4	4	4	7	2	3	1	3	43	91	5.1
		外来	5	4	4	6	3	2	2	4	2	6	2	7	47		
		入院非加算													0		
		外来非加算													0		
	消化器疾患	入院				1		1	1				1		4	4	0.2
		外来													0		
		入院非加算													0		
外来非加算														0			
腎臓病	入院	7	4	6	7	6	12	5	9	5	8	9	11	89	458	25.5	
	外来	45	26	42	26	15	27	28	26	23	24	17	24	323			
	入院非加算								1	1			1	3			
	外来非加算		3	4	1	4	4	1	2	2	3	11	8	43			
肝臓病	入院													0	0	0.0	
	外来													0			
	入院非加算													0			
	外来非加算													0			
肥満症	入院											1	1	2	3	0.2	
	外来									1				1			
	入院非加算													0			
	外来非加算													0			
隣臓病	入院													0	0	0.0	
	外来													0			
	入院非加算													0			
	外来非加算													0			
痛風	入院					1		1						2	2	0.1	
	外来													0			
	入院非加算													0			
	外来非加算													0			
貧血	入院													0	0	0.0	
	外来													0			
	入院非加算													0			
	外来非加算													0			
検査食	入院													0	0	0.0	
	外来													0			
	入院非加算													0			
	外来非加算													0			
脳疾患	入院													0	0	0.0	
	外来													0			
	入院非加算													0			
	外来非加算													0			
がん	入院			1	3		1		1		1	3	2	12	25	1.4	
	外来		2	3	1	2		1	1	1			1	12			
	入院非加算													0			
	外来非加算										1			1			
摂食嚥下機能低下	入院		1		3	1		3					2	10	11	0.6	
	外来		1											1			
	入院非加算													0			
	外来非加算													0			
低栄養	入院				2	2				1			2	7	19	1.1	
	外来		1	1		1	2	1	1	1	1	1	1	11			
	入院非加算													0			
	外来非加算			1										1			
その他	入院													0	413	23.0	
	外来													0			
	入院非加算													0			
	外来非加算													0			
個人指導小計	入院	48	50	57	60	50	46	38	59	43	40	48	72	611	1799	100.0	
	外来	72	69	74	54	42	63	69	60	59	53	40	63	718			
	入院非加算	0	1	2	2	0	0	0	1	3	0	0	2	11			
	外来非加算	30	52	63	43	38	38	33	38	22	28	37	37	459			
集団指導	心不全	入院												0	0	0.0	
		外来												0			
		入院非加算												0			
		外来非加算												0			
	カテパス	入院												0	0	0.0	
		外来												0			
		入院非加算												0			
		外来非加算												0			
	COPD	入院												0	0	0.0	
		外来												0			
		入院非加算												0			
		外来非加算												0			
	集団小計	入院													0	0	0.0
		外来													0		
		入院非加算													0		
		外来非加算													0		
合計		150	172	196	159	130	147	140	158	127	121	125	174	1799	1799		

第2章 会計業務統計（事業会計）

（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）

第1表 比較損益計算書

区 分	令 和 4 年 度		令 和 3 年 度		前 年 度 対 比	
	金 額	構成比率	金 額	構成比率	増 減 額	比 率
営業収益	15,490,162,407 円	99.6 %	16,433,097,653 円	99.5 %	-942,935,246 円	94.3 %
医業収益	9,479,918,242	60.9	9,266,363,623	56.1	213,554,619	102.3
入院収益	7,515,953,161	48.3	7,424,073,500	45.0	91,879,661	101.2
外来収益	1,827,419,135	11.7	1,719,240,120	10.4	108,179,015	106.3
その他医業収益	136,545,946	0.9	123,050,003	0.7	13,495,943	111.0
運営費負担金収益	3,329,392,000	21.5	3,245,242,000	19.7	84,150,000	102.6
運営費交付金収益	0	0.0	0	0.0	0	-
補助金等収益	2,527,735,000	16.2	3,797,795,000	23.0	-1,270,060,000	66.6
寄付金収益	0	0.0	0	0.0	0	-
資産見返負債戻入	153,117,165	1.0	123,697,030	0.7	29,420,135	123.8
営業外収益	68,307,200	0.4	82,266,820	0.5	-13,959,620	83.0
運営費負担金収益	36,738,000	0.2	48,132,000	0.3	-11,394,000	76.3
財務収益	3	0.0	84	0.0	-81	3.6
その他営業外収益	31,569,197	0.2	34,134,736	0.2	-2,565,539	92.5
臨時利益	0	0.0	0	0.0	0	-
過年度損益修正益	0	0.0	0	0.0	0	-
その他臨時利益	0	0.0	0	0.0	0	-
収 益 合 計	15,558,469,607	100.0	16,515,364,473	100.0	-956,894,866	94.2
営業費用	13,828,318,600 円	95.0 %	13,503,218,942 円	94.8 %	325,099,658	102.4
医業費用	13,828,318,600	95.0	13,503,218,942	94.8	325,099,658	102.4
給与費	6,567,438,742	45.1	6,357,834,232	44.6	209,604,510	103.3
材料費	3,680,804,398	25.3	3,745,176,203	26.3	-64,371,805	98.3
経費	2,215,577,409	15.2	2,061,020,543	14.5	154,556,866	107.5
減価償却費	1,316,204,366	9.0	1,291,463,012	9.1	24,741,354	101.9
研究研修費	48,293,685	0.3	47,724,952	0.3	568,733	101.2
営業外費用	744,844,564	5.0	744,798,154	5.2	46,410	100.0
財務費用	64,151,821	0.4	80,303,127	0.6	-16,151,306	79.9
雑支出	0	0.0	69,727	0.0	-69,727	0.0
控除対象外消費税	680,692,743	4.6	664,425,300	4.6	16,267,443	102.4
臨時損失	2,752,958	0.0	0	0.0	2,752,958	-
費 用 合 計	14,575,916,122	100.0	14,248,017,096	100.0	327,899,026	102.3
当年度純損失	-	-	-	-	-	-
当年度純利益	982,553,485	-	2,267,347,377	-	-1,284,793,892	43.3
前年度繰越利益剰余金	418,877,625	-	-1,848,469,752	-	2,267,347,377	-
当年度未処分利益剰余金	1,401,431,110	-	418,877,625	-		

第2表 比較貸借対照表

区 分	令 和 4 年 度		令 和 3 年 度	
	金 額	構成比率	金 額	構成比率
資産	円	%	円	%
固定資産	13,649,776,424	71.4	13,896,727,095	75.1
有形固定資産	13,038,967,148	68.2	13,209,958,892	71.4
無形固定資産	51,467,090	0.3	101,309,480	0.5
投資その他の資産	559,342,186	2.9	585,458,723	3.2
流動資産	5,479,710,493	28.6	4,612,669,377	24.9
現金及び預金	3,479,925,671	18.2	2,673,541,880	14.4
未収金	1,882,056,288	9.8	1,827,016,529	9.9
貸倒引当金	-5,937,311	0.0	-5,056,331	0.0
たな卸資産	123,086,648	0.6	116,588,102	0.6
前払費用	579,197	0.0	579,197	0.0
資 産 合 計	19,129,486,917	100.0	18,509,396,472	100.0
負債及び資本	円	%	円	%
負債	16,336,889,800	85.4	16,699,352,840	90.3
固定負債	13,359,105,223	69.8	13,539,900,844	73.2
流動負債	2,977,784,577	15.6	3,159,451,996	17.1
資本	2,792,597,117	14.6	1,810,043,632	9.7
資本金	-455,417,955	-2.4	-455,417,955	-2.5
当期純利益	3,248,015,072	17.0	2,265,461,587	12.2
負債・資本合計	19,129,486,917	100.0	18,509,396,472	100.0

第3表 収益的収入及び支出（消費税込み）

科 目	現計予算額 (A)	決算額 (B)
	円	円
営業収益	14,717,330,000	15,506,816,031
医業収益	11,241,562,000	9,496,571,866
入院収益	8,599,721,000	7,520,095,066
外来収益	2,443,636,000	1,827,450,114
その他医業収益	198,205,000	149,026,686
運営費負担金収益	3,281,638,000	3,329,392,000
補助金等収益	12,567,000	2,527,735,000
資産見返負債戻入	181,563,000	153,117,165
営業外収益	67,112,000	70,460,749
運営費負担金収益	37,255,000	36,738,000
財務収益	0	3
その他営業外収益	29,857,000	33,722,746
臨時利益	0	0
過年度損益修正益	0	0
その他特別利益	0	0
営業費用	14,163,749,559	14,404,862,344
医業費用	14,163,749,559	14,404,862,344
給与費	5,755,805,249	6,574,843,335
材料費	4,532,744,000	4,048,385,135
経 費	2,478,314,310	2,414,058,839
減価償却費	1,327,744,000	1,316,204,366
研究研修費	69,142,000	51,370,669
営業外費用	122,463,581	182,830,247
財務費用	0	64,151,821
雑支出	0	0
控除対象外消費税	114,367,000	110,581,845
消費税及び地方消費税	8,096,581	8,096,581
臨時損失	1,000,000	2,752,958
固定資産除却損	1,000,000	2,752,958
予備費	0	0

第4表 資本的収入、資本的支出及びたな卸資産購入限度額（消費税込み）

科 目	現計予算額 (A)	決算額 (B)	差 引 収入(B)-(A);支出(A)-(B)
	円	円	円
資本的収入	841,086,000	1,938,715,000	1,097,629,000
長期借入金	0	1,133,000,000	1,133,000,000
運営費負担金収入	793,126,000	757,876,000	-35,250,000
運営費交付金収入	0	0	0
補助金等収入	47,960,000	47,839,000	-121,000
工事負担金収入	0	0	0
寄付金収入	0	0	0
出資金	0	0	0
その他資本的収入	0	0	0
資本的支出	923,364,000	2,299,938,469	-1,376,574,469
建設改良費	923,364,000	919,228,156	4,135,844
施設増改築工事費	0	0	0
資産購入費	923,364,000	919,228,156	4,135,844
償還金	0	1,380,710,313	-1,380,710,313
企業債償還金	0	0	0
たな卸資産購入限度額	4,673,909,000	1,087,416,390	3,586,492,610

第5表 医業収益に対する医業費用の比率（税抜）（単位：％）

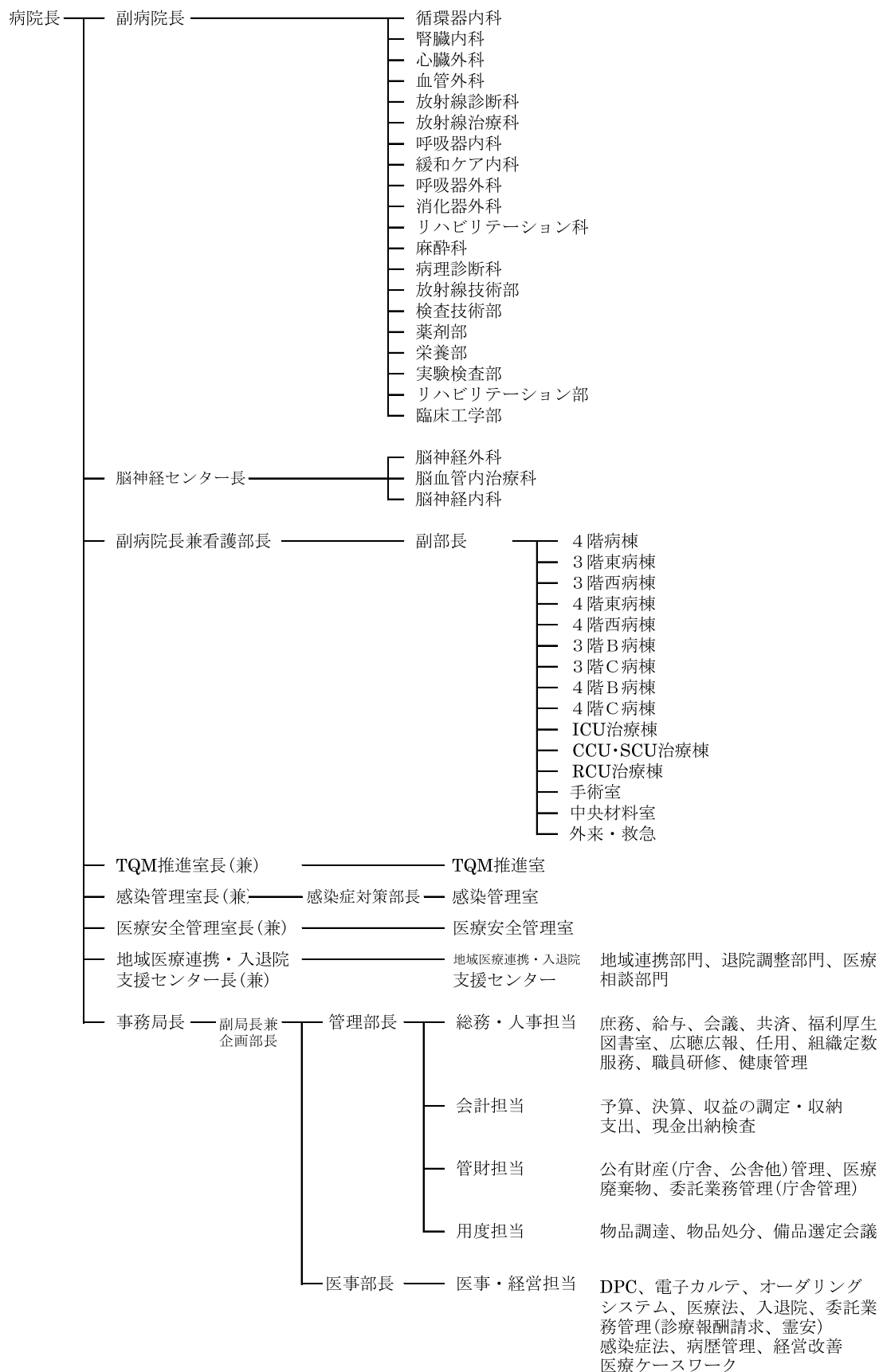
区 分	合 計	給与費	材料費	経 費	減価償却費	研究研修費
令和4年度	145.9	69.3	38.8	23.4	13.9	0.5
令和3年度	145.6	68.6	40.4	22.2	13.9	0.5

第4編

組織・施設編

第1章 組織

(令和5年3月31日現在)



職種別職員定数・現員数

(令和5年3月31日現在)

職種	一般事務職	医師	薬剤師	臨床検査技師	診療放射線技師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	臨床工学技士	生物科学工学士	看護師	准看護師	栄養士	設備職	医療社会事業職	合計
定数	24	73	24	27	24	10	3	2	18	1	394	0	3	3	2	608
現員	23	57	21	28	25	10	2	2	18	1	411	1	3	3	2	607

2 センター内会議及び委員会

センターの管理・運営について協議するため設置されている主な会議及びそれぞれ専門的事項を分掌するため常設されている主な委員会（各業務対応、プロジェクト等の委員会を除く）は、次のとおりである。

名 称	目 的
運 営 会 議	センターの運営・経営に関する基本的事項を協議する。
代 表 者 会 議	センターの運営・経営に関する事項を協議する。
企 画 委 員 会	センターの運営に関する企画・調査及び協議等をする。
医 療 安 全 管 理 委 員 会	医療安全管理対策を総合的に企画、実施する。
医 療 事 故 対 策 委 員 会	重大な医療事故及び原因究明が必要と認めた医療事故について、その原因分析等を行う。
感 染 症 対 策 委 員 会	微生物等の感染を防止し、衛生管理に万全を期す。
T Q M 推 進 委 員 会	センター全体の医療の質の向上のために、トータル・クオリティ・マネジメント（TQM）を行う。
保 険 委 員 会	診療報酬請求に係る諸問題を研究協議し、適切かつ効率的な請求体制を維持する。
診 療 情 報 管 理 委 員 会	病歴及び病歴情報の適正な管理、運用を図る。
倫 理 委 員 会	医師及び研究に携わる者が行う研究等が倫理的配慮の下に行われ、もって患者の人権の擁護が十分に図られているかを審議する。
病 床 管 理 委 員 会	病床の適切かつ効率的な運用を図る。
放 射 線 安 全 委 員 会	放射性同位元素の使用、廃棄その他の取扱い及び放射線発生装置の使用の適正な管理、運営を図る。
特定放射性同位元素防護委員会	防護規程の制定及び改訂、防護に関する教育及び訓練の実施計画等特定放射性同位元素の防護の重要事項を審議する。
輸 血 療 法 委 員 会	血液製剤の安全かつ適正な使用を図る。
薬 剤 委 員 会	医薬品の有効性、安全性及び経済性を検討する。

治 験 審 査 委 員 会	治験及び市販後臨床試験の実施及び継続等について審議する。
化 学 療 法 委 員 会	化学療法及びがん治療の有効性、安全性に関する事項を審議する。
緩 和 ケ ア 委 員 会	がん等の進行性疾患患者及び家族の苦痛緩和、終末期医療における緩和ケアの在り方の倫理的課題等について検討する。
患者サービス・接遇委員会	患者及びその家族等の満足度の向上を図る。
臨 床 検 査 適 正 化 委 員 会	保険診療に係わる臨床検査の適正な運営を図る。
栄 養 委 員 会	患者給食の適切な栄養管理と円滑な運営を図る。
研 究 委 員 会	医療技術の進歩、改善を目的とした研究を円滑かつ有効に実施する。
図 書 委 員 会	図書室の整備及び運営の円滑化を図る。
防 火 ・ 防 災 管 理 委 員 会	防火・防災管理業務の適正な運営を図る。
医 療 廃 棄 物 適 正 処 理 委 員 会	センターから排出される医療廃棄物の適正処理に関する事項を検討し、適正処理の推進を図る。
医 療 ガ ス 安 全 ・ 管 理 委 員 会	医療ガス設備の安全を図り、患者の安全を確保する。
備 品 ・ 診 療 材 料 選 定 委 員 会	センターで使用する備品及び診療材料等を適正に選定、採用する。
医 療 情 報 シ ス テ ム 委 員 会	医療情報システムについて検討する。
ボ ラ ン テ ィ ア 委 員 会	ボランティア活動の拡大と円滑な受け入れを図る。
衛 生 委 員 会	職員の健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進する。

第2章 施設

1 敷地及び建物

(1) 敷地

病院	66,353.36 m ²
江南地区宿舎	10,421.55 m ²
熊谷地区宿舎	2,260.31 m ²
合計	79,035.22 m ²

(2) 建物

ア 建物（病院）

(m²)

名称	構造	建築面積	延床面積
本館棟	SRC造地下1階地上5階建	3,775.52	13,663.91
エネルギー棟	RC造地上2階建	588.00	1,069.81
実験検査棟	RC造地上2階建	212.50	425.00
医療ガス棟	CB造地上1階建	100.00	100.00
公用車車庫	CB造地上1階建	103.50	103.50
治療棟	RC造地下1階・地上3階建	1,607.71	4,695.53
A病棟	RC造地上4階建	1,137.57	4,326.58
A病棟機械室	RC造地上1階建	270.00	270.00
RIリニアック棟	RC造地上1階建	738.71	738.71
調理・洗濯棟	S造地上1階建	1,029.62	1,029.62
病歴収納庫	RC造地上1階建	229.62	229.62
汚水処理場	RC造地上2階建	164.75	268.34
廃棄物保管庫	補強CB造地上1階建	55.87	55.87
新館棟	S造地上4階建	3,851.94	14,480.01
その他		812.74	998.15
合計		14,678.05	42,454.65

イ 建物（宿舎）

(m²)

名称	構造	戸数	建築面積	延床面積
病院長宿舎	RC造地上2階建 5LDK	1	70.68	136.12
副病院長級宿舎	RC造地上2階建 4LDK	2	129.26	250.51
熊谷宿舎	RC造地上4階建 3LDK・3DK	24	583.05	1,951.00
A宿舎（医師）	RC造地上3階建 2K	15	199.35	598.05
B宿舎（看護師）	RC造地上2階建 1K	※20	248.57	497.14
C宿舎（看護師）	RC造地上5階建 1K	40	214.56	1,072.80
D宿舎（看護師）	RC造地上5階建 1K	40	214.56	1,072.80
E宿舎（看護師）	RC造地上5階建 1K	40	214.56	1,072.80
その他	駐輪場ほか		59.75	59.75
合計		186	1,934.34	6,710.97

※20戸中8戸はオンコール待機室

(3) 附属設備

ア 電気設備

名 称	仕 様	備 考
受電	2回線受電（本 線…嵐山吉田変電所小原線） （予備線…江南変電所千代線）	
変圧器 (エネルギー棟)	3φ3W 300kVA 6,600/210V	蓄熱々源
	1φ3W 300kVA 6,600/210-105V	一般電灯（1）
	1φ3W 300kVA 6,600/210-105V	一般電灯（2）
	1φ3W 300kVA 6,600/210-105V	一般電灯（3）
	3φ3W 750kVA 6,600/210V	一般動力
	3φ4W 500kVA 6,600/420-242V	血管撮影X線
	3φ3W 100kVA 6,600/480V	CT動力
	1φ2W 50kVA 6,600/210V	一般X線
	3φ3W 300kVA 6,600/420V	一般X線
	3φ3W 150kVA 6,600/420V	MRI動力
	3φ4W 150kVA 6,600/420V	エレベーター動力
	3φ3W 500kVA 6,600/210V	非常動力（2）
	スコット 200kVA 6,600/210-105V	非常電灯（1）
	スコット 200kVA 6,600/210-105V	非常電灯（2）
	3φ3W 150kVA 6,600/210V	医用CVCF
	3φ3W 75kVA 6,600/210V	電算CVCF
3φ3W 200kVA 6,600/210V	空調動力（ESCO）	
(治療棟)	1φ3W 100kVA 6,600/210-105V	一般電灯
	1φ3W 75kVA 6,600/210-105V	非常電灯
	3φ3W 300kVA 6,600/210V	一般動力
	3φ4W 300kVA 6,600/380-220V	X線
	3φ3W 200kVA 6,600/210V	X線
(A病棟)	1φ3W 100kVA 6,600/210-105V	一般電灯
	1φ3W 150kVA 6,600/210-105V	非常電灯
	3φ3W 500kVA 6,600/210V	一般・非常動力
	3φ3W 75kVA 6,600/210V	RI治療
	3φ3W 100kVA 6,600/210V	空調動力（ESCO）
	3φ3W 500kVA 6,600/210V	一般動力

名 称	仕 様	備 考
(汚水)	1φ3W 15kVA 6,600/210-105V	一般電灯
	3φ3W 100kVA 6,600/210V	一般動力
(実験棟)	1φ3W 75kVA 6,600/210-105V	一般電灯
	3φ3W 150kVA 6,600/210V	一般動力
(新館棟)	1φ3W 150kVA 6,600/210-105V	一般電灯(1)
	1φ3W 150kVA 6,600/210-105V	一般電灯(2)
	1φ3W 150kVA 6,600/210-105V	一般電灯(3)
	3φ3W 300kVA 6,600/210V	一般動力(1)
	3φ3W 300kVA 6,600/210V	一般動力(2)
	3φ3W 500kVA 6,600/210V	放射線動力(1)
	3φ3W 500kVA 6,600/415V	放射線動力(2)
	1φ3W 150kVA 6,600/210-105V	保安・非常用電灯(1)
	1φ3W 150kVA 6,600/210-105V	保安・非常用電灯(2)
	3φ3W 500kVA 6,600/210V	保安・非常用動力
	3φ3W 300kVA 6,600/210V	UPS
	計	10,415kVA
非常用発電機	3φ3W 6,600V ガスタービン1,000kVA	循環器系
	3φ3W 200V ディーゼル 200kVA	呼吸器系
	3φ3W 200V ディーゼル 150kVA	A病棟系
	3φ4W 200V ディーゼル 35kVA	実験・汚水系
	3φ3W 200V ディーゼル 25kVA	汚水送水系
	3φ3W 200V ディーゼル 55kVA	災害用井戸
	3φ3W 6,600V ディーゼル 750kVA	新館棟系
常用発電機	3φ 6,600V ガスエンジン 370kVA×2基	
	3φ 6,600V ガスエンジン 700kVA×2基	
CVCF	3φ3W 210V 75kVA×2基	医療用、電算用(本館棟系)
	3φ3W 210V 100kVA×2基	医療用、電算用(新館棟系)
直流電源	鉛 400Ah/10HR 54セル	本館棟系
	鉛 150Ah/10HR 12セル	治療棟系
	鉛 200Ah/10HR 54セル	新館棟系
放送設備	非常放送1080W 1台	本館棟系
	960W 1台	新館棟系
	360W 1台	治療棟系
	180W 1台	A病棟系
	120W 1台	調理・洗濯棟系
	スピーカー 1,164台	
	呼び出しアンプ 6台	
火災報知	複合盤 GR型1級 504回線	
	副受信機 P型1級 504回線	
	受信機 P型1級 30回線	
	P型1級 10回線	
	副受信機 P型1級 30回線	

	感知器 1,279個 非常通報装置 1台	
時計設備	親時計 (水晶発振10回線) 1台 (水晶発振 2回線) 1台 (水晶発振 4回線) 1台 受信機 1台 (新館棟) 中継器 14台 (新館棟) 子時計 426台	子時計 新館棟160台

イ 空調設備

名 称	仕 様
冷温水発生機	灯油直焚二重効用吸収式×1台 冷房能力 1,088,000kcal/h 冷水12℃-7℃ 暖房能力 1,000,000kcal/h 温水50℃-55℃
	灯油直焚吸収式×2台 冷房能力 151,200kcal/h 暖房能力 180,000kcal/h
	灯油直焚吸収式×1台 冷房能力 120,960kcal/h 暖房能力 144,000kcal/h
	灯油直焚吸収式×1台 冷房能力 120,960kcal/h 暖房能力 105,680kcal/h
	灯油直焚吸収式×2台 冷房能力 105kw 暖房能力 127kw
廃熱回収型冷温水発生機	ガス直焚吸収式×1台 冷房能力 1,103,687kcal/h 冷水12℃-7℃ 暖房能力 9,815,720kcal/h 温水55℃-60℃
空冷チラー	空冷チリングユニット×2台 冷房能力 77.7kw
空冷ヒートポンプ	ヒートポンプチラー×2台 冷房能力 114.0kw 冷水11℃-6℃ 暖房能力 123.0kw 温水40℃-45℃
	ヒートポンプチラー×1台 3φ200V 53.0kW (ESCO) 冷却能力 212.0kW 加熱能力 171.0kW
水冷チラー	水冷チリングユニット×1台 3φ200V 95.0kW (ESCO) 冷却能力 527.4kW
外気処理ユニット	空冷ヒートポンプ式外気処理ユニット 3組 冷房能力 352kw 暖房能力 245kw
	空冷ヒートポンプ式外気処理ユニット 1組 冷房能力 240kw 暖房能力 171kw
	空冷ヒートポンプ式外気処理ユニット 1組 冷房能力 240kw 暖房能力 171kw
	空冷ヒートポンプ式外気処理ユニット 1組 冷房能力 47kw 暖房能力 34kw

	空冷ヒートポンプ式外気処理ユニット 1組 冷房能力 47kw 暖房能力 34kw
	空冷ヒートポンプ式外気処理ユニット 1組 冷房能力 47kw 暖房能力 34kw
	空冷ヒートポンプ式外気処理ユニット 1組 冷房能力 22.4kw 暖房能力 18.7kw
	空冷ヒートポンプ式外気処理ユニット 1組 冷房能力 14kw 暖房能力 12kw
	空冷ヒートポンプ式外気処理ユニット 1組 冷房能力 14kw 暖房能力 12kw
	空冷ヒートポンプ式外気処理ユニット 1組 A病棟 4階系統 冷房能力 107.4kw 暖房能力 84.7kw
	空冷ヒートポンプ式外気処理ユニット 1組 A病棟 1～3階系統 冷房能力 190.0kw 暖房能力 150.0kw
ガスエンジン空冷式 マルチパッケージ型 空調機 GHP	天井カセット形 12台 冷房能力 56kw 暖房能力 63kw
	天井カセット形 19台 冷房能力 71kw 暖房能力 80kw
	天井カセット形 23台 冷房能力 56kw 暖房能力 63kw
	天井カセット形 15台 冷房能力 35.5kw 暖房能力 40kw
	天井カセット形 12台 冷房能力 71kw 暖房能力 80kw
	天井カセット形 19台 冷房能力 56kw 暖房能力 63kw
	天井カセット形 19台 冷房能力 56kw 暖房能力 63kw

天井カセット形 18台 冷房能力 85kw 暖房能力 95kw
天井カセット形 8台 冷房能力 56kw 暖房能力 63kw
天井カセット形 9台 冷房能力 56kw 暖房能力 63kw
天井カセット形 12台 冷房能力 85kw 暖房能力 95kw
天井カセット形 13台 冷房能力 56kw 暖房能力 63kw
天井カセット形 24台 冷房能力 85kw 暖房能力 95kw
天井カセット形 23台 冷房能力 85kw 暖房能力 95kw
天井カセット形 18台 冷房能力 85kw 暖房能力 95kw
天井カセット形 12台 冷房能力 85kw 暖房能力 95kw
天井カセット形 23台 冷房能力 56kw 暖房能力 63kw
天井カセット形 19台 冷房能力 56kw 暖房能力 63kw
天井カセット形 19台 冷房能力 56kw 暖房能力 63kw
天井カセット形 8台 冷房能力 28kw 暖房能力 31.5kw
天井カセット形 19台 冷房能力 56kw 暖房能力 63kw

	天井カセット形 14台 冷房能力 56kw 暖房能力 63kw
	天井カセット形 16台 冷房能力 28kw 暖房能力 31.5kw
	天井カセット形 24台 冷房能力 71kw 暖房能力 80kw
	天井カセット形 22台 冷房能力 56kw 暖房能力 63kw
	天井カセット形 19台 冷房能力 56kw 暖房能力 63kw
	天井カセット形 18台 冷房能力 56kw 暖房能力 63kw
	天井カセット形 10台 冷房能力 35.5kw 暖房能力 40kw
	天井カセット形 21台 冷房能力 56kw 暖房能力 63kw
	天井カセット形 19台 冷房能力 56kw 暖房能力 63kw
	天井カセット形 11台 冷房能力 35.5kw 暖房能力 40kw
	天井カセット形 20台 冷房能力 71kw 暖房能力 80kw
空冷式 パッケージ型空調機 EHP	天吊型 1台 冷房能力 4.5kw 暖房能力 5.0kw
	天吊型 2台 冷房能力 25kw 暖房能力 28kw
	天井カセット形 4台 冷房能力 22.4kw 暖房能力 25.0kw

	天吊型 1台 冷房能力 4.5kw 暖房能力 5.0kw
	天吊型 1台 冷房能力 7.1kw 暖房能力 8.0kw
蒸気ボイラー	炉筒煙管式×2台 定格出力 3,000kg/h (実際蒸発量) 最高使用圧力10kg/cm ² 伝熱面積 38.8m ²
	貫流式 定格出力 1,800kg/h (実際蒸発量) 最高使用圧力10kg/cm ² 伝熱面積9.62m ²
	多管式貫流ボイラー×2台 定格出力 898kg/h (実際蒸発量) 伝熱面積4.94m ²
オイルタンク	埋設式×4基 地上式×1基 容量 30,000ℓ ×2 10,000ℓ ×1 3,000ℓ ×1 1,900ℓ ×1(地上)
空気調和機	94台 (パッケージ・エアハン共)
ファンコイルユニット	547台
全熱交換機	21台
冷却塔	9台
排気ファン	514台
給気ファン	24台

ウ 給排水設備

名 称	仕 様
上水受水槽	鋼板製一体型 有効50m ³ ×2基 FRP製パネル型 有効20m ³ FRP製パネル型 有効20m ³ 鋼板製一体型 有効30m ³ 鋼板製一体型 有効50m ³
上水高置水槽	FRP製パネル型 有効15m ³ FRP製パネル型 有効6m ³ (衛生用) FRP製パネル型 有効10m ³
中水高置水槽	FRP製パネル型 有効9m ³ FRP製パネル型 有効11m ³ FRP製パネル型 有効8.5m ³
中水受水槽	コンクリート製 有効61m ³ コンクリート製 有効80m ³
貯湯槽	ステンレス鋼板製 3m ³ ×2基 ステンレス鋼板製 2m ³ ×2基 ステンレス鋼板製 5m ³ ×1基
汚水処理槽	活性汚泥長時間ばっき方式 (三次処理) 923人槽 740m ³ /日

R1処理槽	貯留3槽
廃液処理槽	中和凝集沈殿ろ過方式

エ 消火設備

名 称	仕 様
スプリンクラー	ポンプ φ100×900ℓ/min×90m×22 kW 補助散水栓×15台 ポンプ φ100×900ℓ/min×70m×18.5kW ポンプ φ100×900ℓ/min×63m×18.5kW ポンプ φ100×720ℓ/min×106m×22 kW 補助散水栓×47台 ポンプ φ25×20ℓ/min×106m×2.2kW
屋内消火栓	ポンプ φ65×750ℓ/min×68m×18.5kW ポンプ φ100×300ℓ/min×60m×7.5kW
炭酸ガス消火	病歴室 68ℓ/65kgボンベ 13本(放出1分) エネ棟ボイラー室 68ℓ/65kgボンベ 22本(放出1分) エネ棟変電室 68ℓ/65kgボンベ 27本(放出1分) エネ棟機械室 68ℓ/65kgボンベ 18本(放出1分) エネ棟発電機室 68ℓ/65kgボンベ 8本(放出1分)
窒素ガス消火	新病歴庫 20.3m ² ボンベ 36本(放出1分)
ハロン消火(1301)	治療棟変電室 68ℓ/60kgボンベ 2本(放出1分) 機械棟ボイラー室 68ℓ/60kgボンベ 2本(放出1分)
消火器	10型(消防署の指定した数量)

オ 医療ガス設備

名 称	仕 様
液酸タンク	5型 貯蔵量4,500m ³
予備酸素	ボンベ2列20本立て
笑気	2列8本立て
窒素	2列8本立て

カ 通信設備

名 称	仕 様
電話	局線実装20回線 内線実装534回線
インターホン	CCU用・中材用・手術用 臨床工学用・アンギオ用・CT・MRI用・薬局用・全館用 ICU用・RCU用
ナースコール	病棟用 60局×5台 CCU用 20局 総合処置室 4局 発熱・感染症外来 2局 新病棟用 40局×4台 ICU用 25局 RCU用 25局 外来用 20局×3台

	腎・透析センター用 20局
院内PHS	子機 480台実装 (内ナースコール連動 101台)

キ 搬送設備

名 称	仕 様
エレベーター	1号機 積載量1,000kg 1～4階停止 寝台用 (A病棟)
	3号機 積載量1,000kg 1～4階停止 人荷用 (A病棟)
	4号機 積載量 850kg 1～4階停止 寝台用 (A病棟)
	5号機 積載量1,000kg 1～3階停止 寝台用 (治療棟)
	6号機 積載量1,000kg 1～3階停止 寝台用 (治療棟)
	7号機 積載量 750kg 1～5階停止 寝台用 (本館棟)
	8号機 積載量1,000kg 1～5階停止 寝台用 (本館棟)
	9号機 積載量1,000kg 1～2階停止 寝台用 (本館棟)
	10号機 積載量 750kg 1～5階停止 寝台 (本館棟)
	11号機 積載量1,200kg B1～5階停止 人荷 (本館棟)
	12号機 積載量 30kg 1～2階停止 小荷物用 (本館棟)
	新館棟1号機 積載量1,000kg 1～4階停止 寝台用 (新館棟)
	新館棟2号機 積載量1,000kg 1～4階停止 寝台用 (新館棟)
	新館棟3号機 積載量1,500kg 1～4階停止 寝台用 (新館棟)
	新館棟4号機 積載量1,000kg 1～4階停止 寝台用 (新館棟)
新館棟5号機 積載量 50kg 1～2階停止 小荷物用 (新館棟)	
自走台車	7kg／コンテナ 15ステーション 水平速度 30m/分 垂直速度 24m/分
気送管	1kg／33ステーション 速度 4～6m/秒
ボックスコンベア	15～20kg/台 5ステーション 水平速度 30～60m/分 垂直速度 6～20m/分

2 主要備品（購入額 1,000 万円以上）

品名	規格	台数	取得年度
〔放射線機器〕			
ガンマカメラ	Infinia Hawkeye4 (GE横河メディカル)	2	19
デジタル X 線 TV システム	ZEXIRA FPD1717 (東芝メディカルシステムズ)	1	21
内視鏡 X 線 TV 装置	EXAVISTA (日立メディコ)	1	23
高速 X 線 CT 装置	Discovery CT750HD (GEヘルスケア・ジャパン)	1	24
3 テスラ MRI 装置	Ingenia 3.0T (フィリップス)	1	25
汎用血管撮影装置	INFX-8000X (東芝メディカルシステムズ)	1	26
X 線一般撮影装置 (頭部)	RADspeedPRO (島津製作所)	1	26
X 線一般撮影装置 (胸部)	RADspeedPRO (島津製作所)	1	26
高速・高解像度バーチャルスライドスキャナ	NanoZOOMer-XR (浜松ホトニクス)	1	26
外科用イメージ装置	BV Pulsela12 (フィリップス)	1	27
汎用超音波画像診断装置	LOGIQ E9 XDClear (GEヘルスケア・ジャパン)	1	27
血管 X 線撮影装置	Allura Clarity FD20 (フィリップス)	1	28
RI モニタリングシステム	MSR 3000 (アロカ)	1	29
放射線治療計画 CT 装置	DiscoveryRT (GEヘルスケア・ジャパン)	1	30
全身用 X 線 CT 装置	IQon Spectral CT (フィリップス)	1	R2
脳外科用バイプレーン血管造影 X 線撮影装置	Azurion 7B 20/15 (フィリップス)	1	R2
回診用 X 線撮影装置	Sirius Starmobile tiara (日立)	1	R2
高精度放射線治療システム	True Beam (バリアンメディカル)	1	R3
血管撮影装置	Azurion 7B 12/12 (フィリップス)	2	R3
汎用超音波画像診断装置	LOGIQ E10s (GEヘルスケア・ジャパン)	1	R3
超電動磁器共鳴画像診断装置	Brilliance iCT (フィリップス)	1	R3
磁気共鳴画像診断装置	Ingenia 1.5T (フィリップス)	1	R3
汎用超音波画像診断装置	LOGIQ Fortis (GEヘルスケア・ジャパン)	1	R4
〔臨床検査機器〕			
デジタル脳波計システム	EEG-1518 (日本光電)	1	18
全自動細菌検査装置	バイオテック2 (日本ビオメリユール)	1	18
超音波診断装置	HD11XE (フィリップス)	2	18
筋電図・誘発電位検査装置	MEB-2300 ニューロパック (日本光電)	1	19
長時間心電図記録解析装置	CardioREV DSC-3300 (日本光電)	1	20
EP ワークメイトシステム	WMU-08-03(セント・ジュード・メディカル)	1	22
臨床用ポリグラフ	RMC-4000M (データスコープ)	1	22
肺機能検査システム	CHESTAC-8900 (チェスト)	1	23
心臓超音波診断装置	Vivid E9 (GEヘルスケア・ジャパン)	1	23
心臓超音波診断装置	Vivid E9 Pro (GEヘルスケア・ジャパン)	1	24
全自動マイクロプレート EIA 分析装置	AP-X (協和メディックス)	1	25
電気生理用三次元画像システム	バイオセンス CARTO3 (シヨソソ・アント・シヨソソ)	1	25
超音波画像診断装置	Vivid Q (GEヘルスケア・ジャパン)	1	26
大動脈バルーンポンプ	CARDIOSAVE-H (マッケジャパン)	1	28
超音波診断装置	EPIQCVx3D (フィリップス)	1	30
心エコー装置	EPIQ7C (フィリップス)	1	R2
自動採血管準備装置システム	BC・ROBO 8001 RFID (テクノメディカ)	1	R3
超音波画像診断装置	Affiniti CV x Advanced	1	R4
〔内科機器〕			
血管内画像診断装置	イメージングシステム s5r (ボルケーノ)	1	21
内視鏡カメラシステム	BIMAGE1 (日本ストライカー)	1	26
電子内視鏡システム	LISERA ELITE (オリンパス)	1	26
オンライン血液透析装置ネットワーク構築電子カルテ接続費用など	東レ	1	29
〔外科機器〕			
腹腔鏡手術器械セット	WA5023B (オリンパス)	1	20

品名	規格	台数	取得年度
気管支ビデオスコープシステム	CLV-260SL BF-UC200FW (オリンパス)	1	21
I C G 内視鏡手術システム	1688 4Kカメラシステム (日本ストライカー)	1	R2
〔手術機器〕			
人工心肺装置	メラHAS型 (泉工医科工業)	1	13
自動麻酔記録システム	ORSYS Vre4 (フィリップス)	1	21
人工心肺装置	メラHAS-II型 (泉工医科工業)	1	22
手術用无影灯システム	PowerLED (MAQUET)	1	23
血管内診断装置	iLab Cart System (ホストン・サイエンティフィック)	1	23
開頭ドリルシステム	開頭ドリルシステム (エースクラブ)	1	24
補助人工心臓駆動装置	モバートNCVC (ニプロ)	1	25
補助人工心臓駆動装置	VCT-50 (ニプロ)	1	25
大動脈内バルーンポンプ	CARDIOSAVE-H	1	25
補助人工心臓駆動装置	モバートNCVC (ニプロ)	1	26
大動脈バルーンポンプ	CARDIOSAVE-H (マッケジャパン)	1	26
カーボン手術台	マグナス手術台1180 (マッケ)	1	28
映像システム	ティギリス (マッケ)	1	28
手術室映像システム	RM-650 (クリプトン)	1	28
无影灯他一式	POWER LED 700 (マッケ)	1	28
超音波診断装置	EPIQ7 (フィリップス)	1	28
手術映像用サーバ	OPELIO SERVER (セブンスティメンションデザイン)	1	28
胸腔鏡手術システム	1488-010-001 (日本ストライカー)	1	28
超音波診断装置	LOGIQS8WithXDClear (GEヘルスケアジャパン)	1	28
超音波画像診断装置	EPIQ CVxi UltrasoundSystem(フィリップス)	1	R2
手術用顕微鏡	KINEVO900 HD2D (カールツァイス)	1	R2
経皮的補助循環装置	SP-200 (テルモ)	1	R2
脳神経外科手術用ナビゲーションシステム	M455001B058 (日本トロンック)	1	R3
人工心肺装置	HASIII (泉工医科工業)	1	R3
筋電図・誘発電位検査装置	NeuromasterG1 (日本光電)	1	R4
経皮的補助循環装置	HCS-CFP (泉工医科工業)	1	R4
全身麻酔器	CareStation650Pro (GEヘルスケアジャパン)	1	R4
〔リハビリ機器〕			
マルチエクササイズテストシステム	ML-3600ほか (フクダ電子)	1	23
磁気刺激装置	マグプロR30 (マグベンチャー)	1	27
心臓運動負荷モニタリングシステム	RH-100 (フクダ電子)	1	R4
〔病棟機器〕			
患者監視装置 (A1、A2)	セントラルモニタシステムCNS-9601他 (日本光電)	1	20
患者監視装置 (A3、A4)	セントラルモニタシステムCNS-9601他 (日本光電)	1	21
セントラルモニタリングシステム	Intellivue telemetry system (フィリップス)	1	24
患者監視装置 (3東)	セントラルモニタシステムCNS-6201他 (日本光電)	1	27
セントラルモニタリングシステム(ICU用)	IntelliVue インフォメーションセンターiX (フィリップス)	1	28
セントラルモニタリングシステム(RCU用)	IntelliVue インフォメーションセンターiX (フィリップス)	1	28
患者監視装置 (4西)	セントラルモニタシステムCNS-6201他 (日本光電)	1	R1
患者監視装置 (3西)	セントラルモニタシステムCNS-6201他 (日本光電)	1	R3
〔薬剤機器〕			
全自動錠剤分包システム	Xana-2720EU (トーショー)	1	19
〔中材機器〕			
高圧蒸気滅菌装置	VCR-G12W (サクラ精機)	1	22
高圧蒸気滅菌装置	VCR-G12W (サクラ精機)	1	23
ハイブリッド高圧蒸気滅菌器	HS6613TDR2LTSF-SR (ケティンケジャパン)	1	28
プラズマガス滅菌器	ステラッド100S (ジョンソンエントジョンソン)	1	30

品名	規格	台数	取得年度
〔その他機器〕			
個別自動検索システム	シングルピッカーシステム (イトーキ)	1	5
映像・音響装置	WP-1100 (松下電器産業)	1	5
高速度撮影用ビデオカメラシステム	HSV-1000 (ナック)	1	6
病歴自動収納庫	システムトリーブ MTC-1024 (イトーキ)	1	16
病歴自動収納庫	システムトリーブ MTC-1024 (イトーキ)	1	17
手術部門看護記録機能	ORSYS看護記録機能 (フィリップス)	1	24
細菌検査システム	SMILE HONEST	1	27
心電図ファイリングシステム	EFS-8000 (フクダ電子)	1	27
ホルター心電図・脳波検査システム	Prime Vita (日本光電)	1	27
適温配膳車	GXスマートタイプ (PHC)	4	R4

年 報 第 29 号

令和5年11月発行

編集・発行 埼玉県立循環器・呼吸器病センター

〒360-0197 埼玉県熊谷市板井 1696

TEL 048 (536) 9900

FAX 048 (536) 9920

印刷製本 関谷印刷製本株式会社

埼玉県のマスコット コバトン&さいたまっち



コバトン



さいたまっち



コバトン